

「新聞」でつくる授業

新学習指導要領と
活用法

教育に新聞を



高齢社会 長生きは本当に幸せなのか？

保険料

12年度 保険料引き上げへ

高齢者の増加に伴い、高齢者の医療費が急増している。これに対応するため、12年度から保険料を引き上げる。高齢者の増加に伴い、高齢者の医療費が急増している。これに対応するため、12年度から保険料を引き上げる。

高齢者の増加に伴い、高齢者の医療費が急増している。これに対応するため、12年度から保険料を引き上げる。

年金減額を提言

政策仕分け 来年度から 物価下落の特例解消

年金制度改革 65歳 法案化見送り

年金制度改革 65歳 法案化見送り

年金

年金減額 40億円無駄

年金減額 40億円無駄

介護

男性介護者、3割に

男性介護者、3割に

男性介護者、3割に

受け皿少なく長期化

受け皿少なく長期化

受け皿少なく長期化



高齢者の声

高齢者の声

高齢者の声

解決への取り組み

解決への取り組み

解決への取り組み

60代も企業の資源

60代も企業の資源

60代も企業の資源

まとめ・感想

まとめ・感想

まとめ・感想



はじめに

NIE実践の指針に

中日新聞社 NIE 委員会委員長 水野 和伸

2011（平成 23）年は、日本で、また世界でさまざまな出来事がありました。国内では 3 月 11 日に東日本大震災という、それこそ太平洋戦争以後最大の災いがふりかかってきました。

世界に目を向けると、チュニジアを発火点としてエジプト、リビアといった国々でそれまでの独裁体制が覆ったり、EU（欧州連合）ではギリシャの金融不安が世界経済全体を揺るがせています。

手書き新聞を 2 週間

大震災で大きな被害を受けた石巻市にある石巻日日新聞は、震災による停電、断水、輪転機の浸水で新聞発行が不可能となった 1 週間、新聞のロール紙に油性ペンで手書きした号外を発行し続け、避難所に貼り出しました。壁新聞は米国の博物館に展示され、国際的な賞も受けました。

北アフリカのリビアでは 42 年間続いたカダフィ大佐の独裁体制が崩壊しました。中日新聞の今村カイロ特派員は、体制崩壊から 1 カ月余で 300 もの新聞が誕生したと伝えています。カダフィ時代はリビアの報道の自由度は世界最低で、体制批判はもってのほか、カダフィ氏以外紙面に個人名を出してはならない、というルールまであったそうです。発行を始めたばかりのある新聞の編集長は「今はリビアの大変革期で、新聞を求める人々の要望は強い。独立と中立を掲げて応える」と語りました。

女性記者に「平和賞」

また、今年のノーベル平和賞にイエメンで「鎖を解かれた女性記者団」を設立、汚職を追及し、報道の自由を求めたタワックル・カルマンさんが選ばれました。

大災害、戦争、大きな政治的、経済的変動が起きるたびにジャーナリズムの活動がクローズアップされるのはなぜでしょうか？ 人間は社会的な

存在であり、この世にたった一人で生きていくわけにはいきません。家族、友人、学校、地域、国、そして世界とつながっています。

東日本大震災で東京電力福島第一原発事故が起きますと、あっという間にその衝撃は世界を駆け抜けました。中東の「アラブの春」も瞬く間に独裁体制を敷く国々に飛び火しました。深刻な災害、事故や犯罪、理不尽な国のふるまいに私たちはあるときは驚き、嘆き、怒ります。

正確な報道に信頼感

そうした出来事を伝えるのがジャーナリズムの役割であり、事実を正確に伝えている、という信頼感があればこそ、地球の反対側で起きた悲劇にも私たちは反応することができるのだと思います。

昨年からはじめた新学習指導要領では「言語活動の重視」が取り上げられ、新指導要領の解説では、読書習慣を身につけさせる努力とともに、新聞をさまざまな形で授業に取り入れるよう求めています。

先生方が今指導に当たっておられる子どもたちの未来には、どんな世界が待ち受けているのでしょうか？ 家族やコミュニティーはどうなっているのでしょうか？ 私にはわかりませんが、行く手に何が待ち受けていても冷静かつ客観的に事態を把握できる目、を持ってほしいと思います。

判断下せる材料提供

NIE 活動というのも、新聞を含めた活字文化を通じて、子どもたちが自分を取り巻く社会について正しい知識を得ること、多くの難問について自分なりの判断を下せるようになるお手伝い、と私は思っています。このガイドブックが先生方の目に触れ、子どもたちの社会に対する関心を少しでも深めることに役立てていただければ、これほどうれしいことはありません。

中日新聞NIEガイドブック

「新聞」でつくる授業

CONTENTS

目次

はじめに

NIE実践の指針に

中日新聞社NIE委員会委員長 水野 和伸

ハウ・ツーNIE

新聞活用に挑戦してみませんか 1

NIE事務局長 西尾 敏正

新聞活用学習

世界の今を考える～アフリカ～(社会) 3

岐阜市加納中学校 小山 智哉

新聞スクラップ帳の活用法(社会) 5

名古屋市昭和橋中学校 伊藤 達也

場面を考え新聞記事活用(学活・道徳・総合) 7

名古屋市昭和橋中学校 伊藤 達也

すぐに始められる新聞投稿(教科・特活・道徳) 9

浜松市佐久間中学校 原田 功

国語と総合学習の連携授業(国語・総合学習) 11

岐阜県土岐市駄知中学校 細江 隆一

■ わが社の教育紙面 13

ジュニア中日、高校生★News、学生之新聞

編集委員 川本 公子

中日こどもウィークリー 教育報道部長 小田 昌孝

■ サンデー版大図解 19

新聞の「特性」ざっしり サンデー版編集部長 加藤 行平

■ わくわく新聞講座、記者派遣 21

NIE事務局長 西尾 敏正

委員 渥美 勝朗

委員 服部 賢

新聞を教材価格で提供します 23

■ 新指導要領にぴたりの記事DB	
電子メディア局委員 伊藤 年一	24
救命の連鎖を考える(特活)	27
津市西郊中学校 杉本 順子	
大震災で「命」、生き方を考える(道徳)	29
愛知県あま市七宝北中学校 豊田 久晴	
新聞切り抜き作品を授業に生かす(国語)	31
岐阜県土岐市駄知中学校 細江 隆一	
新聞記事で作る保健だより(特活)	33
福井県・敦賀気比高校付属中学校 坂本 理香	
新聞切り抜き作品を作ろう(単元学習)	35
長野県大町市美麻中学校 中山 実	
■ 新聞切り抜き作品作りの意義	
中日新聞社(元)NIEコーディネーター 原田 紀保	37
切り抜き作品の募集要項	39
■ 新聞学習カリキュラム	
NIE事務局委員 渥美 勝朗	40

新聞の作り方学習

新聞記事の情報で新聞づくり(社会)	41
静岡県磐田市神明中学校 横井 純夫	
古典新聞をつくろう(国語)	43
長野県大町市美麻中学校 中山 実	
「切り抜き作品」で大震災を考える(学活・総合・道徳)	45
愛知県あま市七宝北中学校 豊田 久晴	
■ 「新聞ができるまで」	47
NIE事務局委員 服部 賢	
■ 学校・学級新聞コンクール	49
NIE事務局委員 服部 賢	
■ 先生のための研修会・ドラゴン号の派遣	50
NIE事務局委員 服部 賢	
■ 愛知教育大学連携新聞講座	51
中日新聞社(元)NIEコーディネーター 原田 紀保	

新聞の機能学習

道徳の授業づくりに活用(道徳)	53
浜松市佐久間中学校 原田 功	
人権をテーマに新聞記事を活用(社会)	55
岐阜市加納中学校 小山 智哉	
身につけようメディアリテラシー(社会)	57
静岡県磐田市神明中学校 横井 純夫	
読解、文章力アップのコラム学習(国語)	59
滋賀県長浜市浅井中学校 橘 利一	
■ コラム学習の薦め	
コラムって、なに	61
中日新聞社編集局次長 白田 信行	
■ NIE月間行事「ファミリー新聞講座」	
家族で“新聞”学ぶ集い	63
NIE事務局次長 野川 真一郎	
■ 新聞社の見学 こんな風に	65
NIE事務局 門脇 力	

新聞教育の指導と奨励

■ 先生のための教育セミナー	66
NIE事務局委員 渥美 勝朗	
学校ぐるみでNIE	
行政が“新聞大好き計画”で支援	67
東京都北区東十条小学校校長	
東京都NIE推進協議会会長	
東京都小学校新聞教育研究会会長 関口 修司	
新聞教育の方法と可能性	71
愛知県安城市錦町小学校 市川 正孝	
■ 中日いきいき学習賞、特別奨励賞	75
中日新聞社NIEコーディネーター 加藤 毅	
■ NIEホームページも参考に	77
NIE事務局委員 渥美 勝朗	
編集後記	78

新聞活用に挑戦してみませんか

NIE 事務局長 西尾 敏正

NIE（教育に新聞を）のガイドブックを開いていただきありがとうございます。

「言語活動の充実」を重点にした新学習指導要領の実施で、中学校では2012年の教科書から新聞にかかわる単元が大幅に増えます。教科は国語、社会だけでなく、数学、理科、美術、英語など幅広く扱われます。つまり、記事を使い、新聞作りなどを通した授業が行われるようになるということです。

新聞利用は“3通り”

新聞離れや活字離れが言われる中、普段、新聞をあまり読まない先生方にとっては、ちょっと頭の痛いことかもしれません。『『指導書』で授業を進めればいいや』とタカをくくっている方もいるかもしれません。

さあ、どうしましょう。これからでいいので、新聞活用に挑戦してみませんか。新聞を使った授業は古くから行われています。支援態勢もあります。このガイドブックは昨春、発行した小学校編（『『新聞』でつくる授業』）の続編です。中学校の先生に、大いに新聞を使って授業をしてほしいと願い発行しました。活用していただければ、うれしい限りです。

おおまかに言うと、利用方法は▽教材として使う▽新聞作り▽新聞の機能を学ぶ—の三つがあります。このガイドでは、実践経験のある先生に、新しい教科書に即した事例を解説してもらいました。さらに、弊社が実施するNIE事業・新聞活用教育への関わり、教育に関する紙面も紹介しました。関心のおもむくところから読んでください。

社会への関心高めて

新聞を使う狙いは、生徒の社会への関心を高め、新聞を読むことで「読む力」や「考える力」、情報の判断力、表現力を育てるためです。情報や知識がますますウエイトを持つ「知識基盤社会」で

生きていくのに必要な基礎学力と言えるのでしょうか。背景に、世界各国の関係がますます緊密化するグローバル化があります。

震災から学ぶ点多い

2011年の大きなニュースは、3月11日に起きた東日本大震災です。まだ、教科書に載っていませんが、震災を伝える記事を基に教材を作り、授業をした先生が、全国にたくさんいます。生徒は「今」の社会に生きています。災害情報の大切さや役割、メディアの特性、ボランティア活動、防災教育、原発とエネルギー問題など、学ぶべき素材がたくさんあります。生徒たちの関心も高く、貴重な教育機会を見逃さない積極的な取り組みといえるでしょう。

著しい作文力の低下

私たちは、学校から新聞に関する授業を頼まれ、紙面構成、新聞の役割、ことばについて話をさせてもらうことがあります。「新聞を定期的に読める人は挙手して下さい」と聞くと、手を挙げる生徒、学生はパラパラという程度です。これが現実です。その中でどういうことが起きているのでしょうか。

作文力の低下です。最近、大学の関係者から「成績はまあまあだけど、エントリーシート（就職の応募用紙）が書けない学生が多く困っている」という話をよく耳にします。大学で授業をした時に授業の感想を書いてもらうことがあります。確かに作文力に疑問符を付けたくなるケースがあります。主張があいまいだったり、的確な言葉が使えてなかったり。まずいなあと感じるのは、自分の目でモノ（対象）を確かに見て、考えたという感じが希薄で、意見にまとまりの感じられないものが多いことです。一部の現象なら良いのですが…。多くの関係者が指摘するところをみると静かに進行しているのかもしれません。

作文力養成にコラム

一方、中学生でも新聞のコラムを読み、活字に関心のある生徒の作文はしっかりしています。職場体験で弊社を訪れた女子生徒（2年）の感想文を二つ紹介します。いずれも、自分で希望して新聞社を選んだ生徒です。

A 「新聞の中には地域のことから、海外の話まで、どんな人でも楽しめるように、色々なニュースがのっていると、教えていただきました。新聞を読むと、自分の視野が広がり挫折しそうな時、自分を助けてくれることも知りました。このお話を聞いて、これまで新聞を読んでいなかった事に対して今、すごくもったいないなあという気持ちになります」

新聞で語句増やせる

B 「講義では新聞の役割について教わった。その中でも『新聞を読むことで自分の中の宝を引き出すことができる』という言葉。なるほどな、と納得だった。新聞を読むことで自分の語句が増える。そして考えが浮かび、思うことが生まれる。それを想像してイメージを膨らませることで自分の世界が広がる。これは、けっして簡単なことではないだろう。私にできるかどうかは分からない。でも努力して少しずつやってみることで身につくなら、新聞を毎日、読んで役にたつ時間にしたい」

書けば考えるに直結

大人の話をしっかり受け止めているのが分かります。「新聞は中学生には難しい」と決めつけられません。手前みそ、と思われるかもしれませんが、この二人の世話をして私たちは大喜びでした。彼女たちの思いがしっかり届いたからです。一人には「むだな接続詞を使わない」などと作文を指導し、格段にうまくなりました。何よりも講義を受けている時の表情がとてもよかったのです。未知の世界を開いていく時、人の目は本当に輝いています。国語教育の大先達・大村はま先生（故人）が『教えるということ』の中で「子どもというのは『身の程しらずに伸びたい人』のこと…」「いくつであっても伸びたくて伸びたくて…」と書いていますが、目の当たりにした思いでした。

書くことは考えることに直結しています。書く力は読むことで培われます。新聞を読むのに中学

生は決して早いとは言えないと思います。実際、多くの中学校が新聞を授業で使っています。

小学校でも早すぎません。東京都北区は教育委員会が「新聞大好きプロジェクト」を実施しています。東十条小学校は「コミュニケーション力を育み、言語力を鍛える新聞教育」のテーマの下、全学年で新聞を活用した授業を展開。公開授業の基調提案で「新聞教育は、決して特別な教育ではない。すべての教員が授業をよりよくし、学習を充実させるために、誰もが実践すべき教育である」と提言しています。

素材を教科書に高めて

要は、先生の創意工夫です。いわゆる教材開発。先生の腕の見せどころです。新聞を使っている先生はいつも、子ども目線で授業に使えるネタ（教材）はないかと目を光らせています。素材を教科に結びつける努力を怠らず「教科書だけでは教材が足りない」と言い切ります。

新学習指導要領は「生き抜く力」「思考力」「判断力」「表現力」の育成を基本的なねらいとしています。

新聞で世の中の出来事に向き合わせ、生徒の思いや考えを引き出して表現させることは、これから生き抜く生徒の足腰、いや「生きる力」そのものを育てることにつながるのではないのでしょうか。課題を見つけて考え、解決していくプロセスこそ「生きる」ことなのですから。

教科書と違う“感動”

コラム学習を続ける男性教諭がこう打ち明けてくれました。「新聞を使うと教科書で得られない感動がある」。生徒の関心の広がり、話す内容の深まりに気づいた親がワークシートの裏に「子どもの成長の秘密はコラム学習のおかげだった」と喝破（かっぱ）し、感謝の思いを伝えてくれたそうです。

NIEは、新聞を学ぶものではありません。社会を映し出す新聞という『器』（もちろん中身も）を、先生、子ども、新聞の三者が学びを深める土俵にしていくことだろうと思います。キーワードは「ことば」。大村はまさんは「ことばを育てることは ところを育てること 人を育てること 教育そのものである」と言っています。

世界の今を考える～アフリカ～

岐阜市加納中学校 小山 智哉

狙い

アフリカ州の産業の資料や人々の生活に関する新聞記事から、豊富な資源があるのに人々の生活の向上が困難な理由や、アフリカ支援に携わるゾマホン氏によるアフリカの展望について考える。この活動を通して、ヨーロッパの植民地支配による影響、民族対立、生活環境の悪化が要因であることに気付き、今後のアフリカ州の産業発展を望むには、豊富な資源の輸出に頼る産業の発展だけでなく、人々が生活の向上を目指すための技術力を身に付けることの必要性を理解する。

ステップ1 世界は今、どのように動いているのだろうか。(情報を知る)



生徒自身が世界の動向を知ることから始めました。そのため、教材づくりの一環として、世界の出来事に関する新聞記事を集め、生徒に紹介しました。

「〇〇は知っている」「こんな出来事は知らなかった」など生徒の感想はさまざまでしたが、世

界の出来事に関心をもつことができるようになり、新聞切り抜き作品づくりにもつながっていききました。このような世界の出来事に関する紹介をすすめ、授業「アフリカ州」の関心が高まってきました。

ステップ2 アフリカ州は、どのような州なのだろうか。



【2011年7月14日（中日新聞）】

世界の出来事からアフリカに目を向け、アフリカ州の国名を踏まえた上で、ヨーロッパの植民地



【2011年10月21日（中日新聞）】

支配による影響、民族対立、生活環境の悪化について新聞記事から考えました。

資料活用の様子



新聞記事を拡大して教室に掲示し、生徒がいつでも授業で活用できるように工夫しました。

生徒の感想

・（リビアの記事から）42年も独裁政権が続いた。自分のことしか考えていないから、国民にお金が行らなかったで、貧困な生活があったのではと思う。

新聞記事を足がかりに、教材化を図るため、アフリカ支援をするゾマホン氏への取材



ベナンの識字率の低下などアフリカの現状の理解を図りました。

・（アフリカの人々の生活の貧しさについて）文字が読めないと、言いたいことも言えず、やりたいことができないのではないかと思います。

新聞スクラップ帳の活用法

名古屋市昭和橋中学校 伊藤 達也

狙い

新聞活用学習のすべてのベースになる記事を集め、情報の整理と世の中の出来事に関心を持たせる。

1. スクラップノートの作り方

スクラップノートを使って、新聞を切り取る方法は、二通りあります。一つ目は、始めからジャンルを決めて切り取る方法。もう一つは全くジャンルを決めないで自分の興味だけで切り取る方法です。

【ポイント】

記事なら何でも OK からスタートする方がよい。あれダメ、これダメはなし。無理なく始めることが長続きのポイントです。

2. 分析してみよう

ときどき、自分のノートを見返してみよう。その方法は二つあります。

①自己分析

分析プリントを活用して、ノートに貼り付けた記事のジャンル分けをする。すると、自分のスクラップ記事の傾向が分かります。

分析→傾向把握→自分の取り組みを客観的に見る
ことができる

【ポイント】

自分の傾向をグラフ化することによって視覚的につかめるようにします。

②他者分析

夏休み明けの9月の最初の授業で、一学期間のスクラップノートをクラスみんなで見せます。他人のノートを見て、自分のノートと比較し、参考になるところをまねすると良いと思います。

【交換会の様子】



二学期 夏休みスタート 夏休み中の世の中のできごとを振り返ってみよう
3年 社会科 2組 14 組員名

他の人のスクラップノートを見させてもらいましょう。

1. 自分が切り取っていない記事を探してみよう。

月 日	記事の内容
7月26日	水の事故を防ぐ (～んがまだやらないぞ)
8月7日	手紙の交換 (4つとどけよう)
8月25日	大きな空の飛行機

2. 他の人の記事で気になった記事や興味を持った記事を探してみよう。

ノートの持ち主	月 日	記事の内容
北川 安里菜	8月24日	怪獣の出現、奇跡の再会!
〃	8月30日	怪獣の出現、奇跡の再会!!
勝山 こよみ	7月26日	ピザの作り方を紹介
新井 真保	8月27日	名産品、安産と「産後」
豊田 美穂	8月31日	新聞に新聞を～と名産品の情報

3. 他の人のスクラップノートを見させてもらってどんなことが分かりましたか、今後のスクラップノートの作成にどんな参考になりましたか、感想を書きなさい。

みんなそれぞれいろんな記事を集めていた。
私が知らない記事もたくさんあってびっくりした。
みんなそれぞれスクラップノートの使い方が違って、僕も参考にしたい記事の多い。
あり、これから私がスクラップノートをやるときは参考にしよう。
た、また、少ししたら、このように交換会を、マシイ。
（おまけ）

他を見る→自己と比較→自己の再発見と改善
→より良いスクラップノートに進化

3. 成果

生徒の感想から

- ①スクラップノートは大変だったけど、社会のいろんな出来事と私たちの関わりがよく分かった。また、父や母に分からないことを聞くことが増えたので、いろいろなことを家族で話すことが多くなった。
- ②記事を分析することや他の人のスクラップノートを見ることで、いろいろな角度から記事を見ることができるようになった。

4. 記事の振り返り

スクラップノートは、やりっ放しになって、ページが増すごとに自己満足に陥ることが多く、過去の記事から学ぼうとしないことがあります。そこで、過去の記事を振り返らせるために、夏と冬の1年に2回は、ノートの前のページを見させて、現在とのつながりや時間の経過を実感します。

「わたしの印象に残った5大記事」の作成

【ポイント】

絵日記を参考に、だれもが楽しくやれるように記事の内容を絵で表現させてみると思いのほか生徒は楽しく取り組むことができます。また、文字（記事）をイラスト化すれば、記事の内容をより深く理解できます。

①1学期のスクラップノート「私の5大記事」

夏休み前の最後の授業で1時間程度を活用します。やり残しは、夏休みの課題としても良い。1学期間にしてきた自分のスクラップノートの過去のページを見て、印象深かった記事を5つに絞り込むと同時に、選んだ理由を考えさせます。



記事を選んだ理由

記事を一コマの絵で表現する

②今年一年を振り返って印象に残った5大記事

冬休み直前の授業時間か、冬休みの課題として、毎年12月28日ごろ、新聞社やテレビ局が行う今年の10大ニュース記事を参考に自分のノートから、特に印象深かった記事を5～10選ばせます。夏に5大記事として行っているので、ベスト10と称して10の記事を選ばせても良い。方法は、夏の5大記事と同じように、ワークシートを使います。

5. 記事から発信

生徒のスクラップノートなどから、授業中に取り扱った記事をもとに考えたことや感想を記事の当事者へ発信も可能です。

【ポイント】

普段のスクラップノートは、生徒と学校（教師）間が中心ですが、自分の考えが学校から飛び出し、社会へ発信する大切さや責任などを事前に話しておくことも大切。活用する記事はワークシートのような形式に加工して使うと良いと思います。

記事当事者との連絡は、新聞社を通すと円滑にできることが多い。ほとんどは、ネットを活用すれば、連絡先等は簡単に検索できます。

【活用例】

生徒の新聞切り抜きから

愛知県・平和町の星野 勇さんの記事

障害者の人への無料靴直し20年

道徳の時間に紹介し、生徒の感想と星野さんへのメッセージを作成し星野さんへ発信



星野さん本人からの返事も掲載

場面を考え新聞記事活用

名古屋市昭和橋中学校 伊藤 達也

学活・総合的な時間などで使える新聞活用

1. 総合的な時間での活用

狙い

総合的な時間や学活の時間に、いろいろな形で新聞を活用すれば、私たちと学校の中だけの取り組みから、地域社会や世界との関わりを自然と感じさせます。

(1) キャリア学習（進路学習）での活用

(1、2年生)

中学校のキャリア学習は、3年間を通して体系的・継続的にする必要があります。3年間で多種多様な職業を紹介したり、考えさせたりする時に新聞を活用できる場面があります。

活用例 1

仕事に関する新聞記事の活用

【ハローお仕事】中日新聞の日曜日の記事

①新聞の記事を基にした、ワークシートの作成



【ハローお仕事】学年廊下に掲示



進路学習
働く人シリーズ
の記事

【ポイント】

生徒の目につきやすい場所に記事を掲示することが重要です。

活用例 2

校外学習（行事）のまとめ

校外学習の事後学習を新聞の形式でまとめさせ、教室等で掲示します。

A 名古屋市内の校外学習の実施

【訪問先】

名古屋港、防災センター、東山動物園、徳川美術館などの班で分散活動

B 新聞の形式でまとめる指導（1時間）

- ・新聞のレイアウトの説明
- ・逆ピラミッド
- ・5W 1H
- ・見出しとリード

C 過去の歴史新聞から学ぶ

D 校外学習新聞の作成（2～3時間で完成）

【出来上がった校外学習新聞】



活用例 3

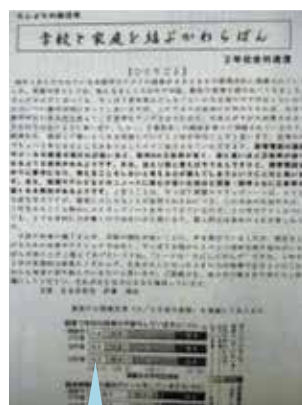
岩手県立高田高校野球部のがんばり記事から考えさせ、自分のメッセージを作成します。



生徒一人一人
自分のメッセージ
を書く



学年通信でも
新聞活用の紹介



社会科通信で
新聞活用紹介

2. 学活・道徳で活用（1時間）



一方的な批判でなく、
いろいろな立場の
記事を紹介すると
良い

活用例 1

制服やマナーについて考えさせるワークシートの作成。

オリンピック選手の乱れた制服について、制服の意義や公式の場でのマナーを考えさせるためのワークシート。

【ポイント】

道徳などの時間では、苦難を乗り越え力強く生きている人の記事を使って、自分のメッセージを発信すると、記事とつながることができます。

活用例 2

脊椎損傷を乗り越えて弁護士になった名古屋市東区の鮎沢さんの記事からワークシートの作成。



難しい言葉にはその意味の解説を
載せておくが良い

3. 成果

生徒の感想から

①記事に出ていた人から手紙やメッセージが届いたときには自分と記事との関わりやつながりを実感できた。たった1本の記事からつながりを持つことができ、すごいことだと思った。

新聞記事を家や学校でいつも見ているので、自然と世の中のことがわかる。気になる。つながりを持てると思う。

②記事に載っている人から返事がいただけたのはびっくりした。いろんな人と新聞を通して友達になれる気分が味わえた。東北の人（岩手県）とつながれたような気がした。

すぐに始められる新聞投稿

浜松市佐久間中学校 原田 功

狙い

新聞への投稿は、自分の考えを社会に発信する良い機会になります。中学生は、身近な問題から広く社会事象まで自分の考えを持ち表現できます。

これまで、自分の考えを社会に発信することによって、考えをより確かなものとするのをねらいに、投稿に取り組んできました。

1. 投稿の実際

①とっても簡単、すぐに始められる

投稿は、原稿用紙1枚とFAXがあればできます。新聞社へはFAXで送れます。郵送、直接届ける方法もあります。

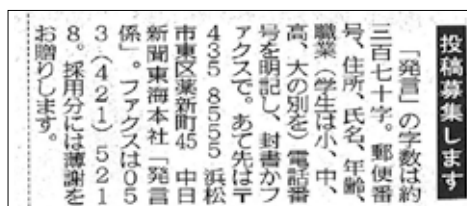
②毎朝、新聞を確認

投稿しても採用されるという保証はなく、いつ採用されるかは分かりません。そのため、投稿欄を毎日確認する必要があります。

③投稿のやり方(例)

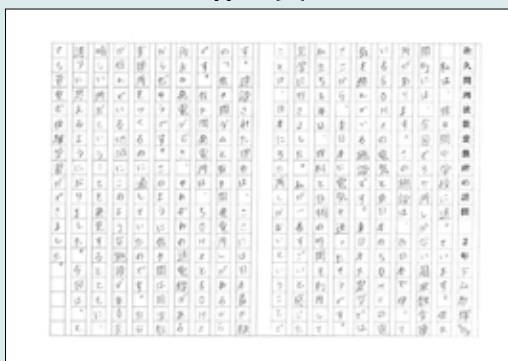
学校行事の感想や自分の考えを書く→添削・確認→投稿(FAXなど)→採用されたら

(1) コピーして生徒へ (2) 学級掲示に (3) スクラップして保存(教師)



▲中日新聞東海本社の場合

作文



新聞に採用



④始めるのは入学時が最適

新聞投稿は、いつでも始められますが、入学時に始めるのが最適です。テーマとして「入学しての決意」などが書きやすいかと思います。入学した時から定期的に作文を課すことによって「中学生になったら作文を書くものだ」という習慣がつかます。学級単位でもできますが、学年や学校全体でやるとより効果的だと思います。継続すると作文への意識が変わるので、事前と事後にアンケートをとり比較すると成果が分かります。

⑤ テーマ特集を使って採用率アップ

早く新聞に載せたいとか、何を書かせたらいいか困ったときは、テーマ特集を使うといいでしょう。中日新聞からは、水曜日や土曜日に「ゴールデンウィークの過ごし方」「夏休みの過ごし方」など、生徒が書きやすいテーマも出されます。締め切りがありますが、採用の確率はかなり高いはずです。



テーマ特集に投稿
同時に2人が
採用されました

▼スクラップするときに日付も忘れずに



2. “しまった” とならないように

① 個人情報は必要最小限に

新聞への投稿は、原則として匿名ではできません。氏名や年齢、住所（浜松市〇〇区）、中学生、などが表記されます。中には個人情報が公になることを避けたい生徒もいますので、本人や保護者の了承をとっておく必要があります。

作文が採用されると、新聞社から謝礼が送られてきます。自宅などの個人情報を出したくないときは、学校に送ってもらうと良いでしょう。

② 間一髪、内容の確認は忘れずに

「これ載せていいですか？」という新聞社からの確認、問い合わせに“しまった”と思ったことがあります。それは、友だちとのトラブルを書いた作文でした。プライバシーに関わる内容が含まれていたのです。破棄してもらいましたが、内容を再確認しなかったミスです。

③ FAX は便利ですが、文字の濃さには注意

作文を送るとき、FAX は便利です。しかし、文字が薄いとうまく読み取れないので、いくら良い作品でも、採用されません。FAX で送るときは、濃く丁寧に書かせるといいでしょう。

④ スクラップは、日付も入れて

採用されたものは、スクラップしておくとして残ります。日付も手書きしておけば良いのですが、新聞欄外の日付を利用する方法もあります。

⑤ 加減することも

生徒も試験前など、忙しい時期があります。「定期的に」とは矛盾しますが、生徒の様子を見ながら、加減して続けていくことが長続きするコツかもしれません。

3. 期待される成果

生徒にとって

○ 自尊感情の向上

新聞に載れば、自信にもつながるでしょう。

○ 表現力の育成

文書を読む力や書く力をつけさせることができるでしょう。

教師にとって

○ 心の中を知る手だて

生徒の心の中を知る手だてとなるでしょう。

国語と総合学習の連携授業

岐阜県土岐市駄知中学校 細江 隆一

狙い

東日本大震災の記事から「平和」を考え、現在の自分たちと比較しながら、意見をまとめましょう。

東日本大震災の新聞記事を持ち寄って互いに交流。自分が新しく学んだことはノートに記録

宿題として東日本大震災に関わる記事を自宅から切り抜いて持ってきます。新聞を購読していない生徒は、学校のワークスペースに置いてある新聞から切り抜きます。

基準として「自分が心を揺さぶられた記事」であること、「自分の意見を書けそうな記事」であることを提示しました。中には学校の新聞からあらためて探す生徒もいました。



自分が考えていたことが、仲間と交流するうちにさらに固まった生徒がいる一方で、被災者を単純にかわいそうだと思っていた生徒が、たくましく生きる人々の様子から、「自分の考え方は甘かった」と改める例もありました。日本人の美徳だと言われていた「礼儀正しく順番を待つ人たち」に感動する生徒がいる一方で、原発に近い地域に入り込み、金銭などを盗む輩（やから）がいることに立腹する生徒がいました。

記事を持ち寄って交流する意味は、仲間の意見

を聞くことで、自分だけの考えに縛られず、客観的な見方をすることにあります。最初に考えていたことが、別の考え方や反対の考え方を聞いて、より明確になります。新聞記事を持ち寄って、わいわい話し合い、生徒は自分なりの考えを持つようになりました。

今回の授業は国語科と総合的な学習を連携させた授業です。国語科は「書くこと」の指導で、総合的な学習は2012年度に実施する3年生の総合的な学習のテーマ「平和」の事前学習で実施しました。3年生は修学旅行で広島を訪れますので、東日本大震災による原子力発電所の被害などを学ぶことが総合的な学習につながると考えました。

交流した中から自分が書けそうな内容を選択し、意見文を書く

次のステップは、仲間の考えを聞いて、自分の意見文を書く段階です。生徒は自分の持ってきた記事だけでなく、それを補強する記事を自宅で探して来たり、仲間からもらったアドバイスをノートに記入しています。後は構成を考えて、意見文を書けばよいでしょう。

意見文などの作文は今回もそうですが、一般的に「情報を収集する→情報を取捨選択する→メモで構成を立てる→原稿用紙に下書きをする→推敲する」の流れで進んでいきます。

最後に班内で交流する時間を確保し、意見の違いを確認する場を設定しました。



班内で交流、よいものは全体で発表

書き上がった作品は、班内で順次推敲をしました（書き上がった生徒の作文を班のだれかに読んでもらいました）。誤字脱字だけでなく、文章の論理的な流れなどにも注目させました。推敲が終わった生徒は清書に入り、意見文を書き上げました。早く書き上がった生徒は、「ミニ・ティーチャー」として仲間の作文を推敲したり、書けなくて困っている仲間にアドバイスをしたりしました。

完成した作品は、あらためて班内で交流する時間を取りました。班内で読み合い、作品表にその良さを記入していきます。その中では「自分と同じ意見なのに書き方がうまいなあ」「自分の考えをこうやって書けばいいのか」など、感嘆の声があがりました。

新聞社へ投稿

書き上がった作品は、新聞社へ投稿しました。新聞記事から得た情報で意見文を書き、それを新聞社に投稿するのは、新聞社に対するお礼の意味もあるし、インプットした内容をアウトプットすることによって、自分の意見をさらに強固なものにする意味もあります。

生徒にはあらかじめ、「完成した作品は新聞社へ投稿するよ」と伝えてあるので、生徒は「5つの言語意識」（相手意識、目的意識、場面・状況意識、方法意識、評価意識）を意識して作文を書きました。

以下は新聞に投稿して、採用された文章です。

「かわいそう」絶対言わない

先月11日に起きた東日本大震災で、私は「言葉」の使い方をあらためて考え直しました。

例えば、被災者の方々に「頑張れ」というのと、「頑張ろう」と言うのでは、伝えたいことは同じかもしれませんが、もし私が言われる立場なら「頑張ろう」と言われた方が、一緒に頑張ろうとしていてくれるんだと、安心できる気がします。その他にも、「かわいそうに」と絶対に言わないようにしています。確かに被害に遭われた人は家も無くし、安否がわからない家族もいます。しかし、それを「かわいそうに」と片付けてしまうのは、

今も家族が生きていることを信じて懸命に捜している人たちの希望をなくさせてしまうと思うからです。

被災者の方々は、今も生きていることだけを生きがいに行っていると思います。必要な物資を送ることも大切ですが、私たちには少なくとも励ますということではできません。だから言葉の一つ一つに気をつけ、「頑張れ」ではなく、「頑張ろう」と一人でも多くの人が被災者に言葉を届けられるといいです。私もその一人になれるように、言葉の重みについて考えられる人になりたいです。

<岐阜新聞 2011, 4, 3>

この女子生徒は記事を持ってきた段階で被災者に対して「かわいそうだ」「励ましたい」という意識を持っていました。それが仲間と交流するうちに変容し、作文に記述しました。

震災・原発事故で考えたこと

東北や関東地方で、地震による大きな被害が出ている。被災地の被害もはかりしれないが、それにともない二次災害も起こっている。原子力発電所は電気を作り出す、すばらしいものだが、放射能という危険なものを扱っている。今回の震災によって、放射能が漏れてしまった。少しの量でも問題になるくらい危険なものだ。人や植物にも被害を与えている。

でも、これも人間が作り出したものなのだ。私たちは便利になる一方で、危険なものも作り出しているということだ。しかし、電気は今の私たちにとって必要なものだ。いくら危険と言われても、原子力発電に頼らざるを得ないのが現状だ。文化や技術が進歩していくなかで、大切なものを失っているのだと、この震災を通じて感じた。だから、昔のできごとから学ぶということが必要なのだと思う。

<朝日新聞 2011, 4, 30>

この女子生徒は、「平和」という観点から原発に目を向け、今の自分たちの生活と比較しながら文章を作っています。新聞記事の内容を自分の中で咀嚼（そしゃく）し、意見を構築し、意見に結びつけているのです。NIEで、今後もこうした生徒をたくさん育てたいと思います。

避難所に笑顔咲く

東日本大震災心の支え

子どもたちがボランティア

避難所生活を送る子どもたち。被災地では、避難所生活を送る子どもたちが、ボランティア活動に参加している。被災地では、避難所生活を送る子どもたちが、ボランティア活動に参加している。被災地では、避難所生活を送る子どもたちが、ボランティア活動に参加している。



前中野市立小中学校の避難所生活。避難所生活を送る子どもたちが、ボランティア活動に参加している。被災地では、避難所生活を送る子どもたちが、ボランティア活動に参加している。



最近の動き

北アフリカ・リビアの内戦に18日、高田、米田、フランスなどの支援隊が参戦。反政府軍と政府軍との戦いが激化している。反政府軍は、カダフィ大佐が率いる。反政府軍は、カダフィ大佐が率いる。反政府軍は、カダフィ大佐が率いる。



「レイプ・ペルリン動物園」の写真家が18日、動物園で撮影した。動物園は「動物園の出来事」と題して、動物園で撮影した。動物園は「動物園の出来事」と題して、動物園で撮影した。動物園は「動物園の出来事」と題して、動物園で撮影した。

(写真は2010年撮影、A.P.)



1945年に建てられた木造校舎の下で、新しい校舎の建設が始まる。新しい校舎の建設が始まる。新しい校舎の建設が始まる。新しい校舎の建設が始まる。新しい校舎の建設が始まる。

被災地に元気届けたい



センバツ開幕 東北高も出場

東北高も出場。東北高も出場。東北高も出場。東北高も出場。東北高も出場。

和装でキリリ卒業式



校長先生が挨拶で卒業式に出席した。男子7人、女子1人の男女混合の学校で。

卒業式に出席した。卒業式に出席した。卒業式に出席した。卒業式に出席した。卒業式に出席した。

新聞活用学習

わが社の教育紙面

小中学生が楽しめる4ページ

ジュニア中日

小中学生を対象にした「ジュニア中日」は、2011年3月末にスタートしました。掲載されるのは毎週日曜日付朝刊4ページ。朝刊の中央にあり、簡単に抜き取って読めるようになっています。

新たな学習指導要領に基づき、11年度から小学校、12年度に中学校の教科書が変わる中、思

考力や判断力、表現力を育むための言語活動が重視されています。このため今まで以上に新聞を学校でも役立ててもらいたいと、それまでの子ども向けページを発展させる形で再出発したのです。

ジュニア中日の1面は子どもたちに読んでほしいニュースを記者が選び、「ニュースイッチ押し」や「最近の動き」で紹介します。また「スポットライト」で、各地の子どもたちの生き生きとした活動にも目を向けてもらうようにしました。



多彩な職業の現場を取材

4面は、写真をたくさん盛り込んだ「ハローお仕事」です。小学5、6年生や中学生の記者がさまざまな職業に携わる人を訪ね、意外に分からない仕事の内容や面白さ、苦勞などを取材します。

学校で地域の施設見学や職場体験が行われていることから、子どもが仕事について考える機会をと企画しました。こども記者や中学生記者は毎年

ハローお仕事

3月に中部地方のほぼ全域から募集し、合わせて約300人を選びます。

取材活動は土曜日や日曜日などに

行い、6人ずつ交代で出掛けます。

記事は主に同行する教育報道部の記者が書きますが、こども記者や中学生記者が中心になって質問し、感想も書いて紙面作りに参加しています。

企画も取材も紙面に深く“タッチ”

「ジュニア中日」を担当する教育報道部はほかに、隔週火曜日付朝刊で「高校生★News」と「学生之新聞」を制作しています。

高校生★Newsは、公募で選んだ高校生スタッフが記者と取材し記事化する「ホップスタッフジャンプ」、若者が関心を持つテーマを取り上げる「青旬クローズアップ」、夜回り先生こと

高校生★News

学生之新聞

水谷修さんのコラム「明日を求めて」があります。

学生之新聞は短大、大学生、大学院生向けで、学生スタッフが企画から取材、執筆まで紙面づくりに関わる「スタッフが考える」シリーズ、キャンパスの話題を伝える「学生街ダンス」、「英語の質問箱」「研究室発」などが掲載されています。

「新聞で英語を」をテーマに



学校教材に最適 なるほどランド

「ジュニア中日」2面のメイン記事は「なるほどランド」です。小中学生に理解を深めてほしいニュースや社会の出来事、文化などいろいろな分野の話題を、写真や図、グラフなどを取り入れて分かりやすく紹介します。学校で授業の教材としても利用していただけるよう工夫しています。

下段の「リトル・シェフの作ってみよう」は、子どもたちのアイデア料理です。イラスト付きのレシピと、完成品の写真が載っています。お料理の先生のアドバイスも参考にして、ぜひ挑戦してみてください。このほか、世界の子どもたちの生活を紹介する「地球の子どもたち」もあります。いずれも幅広い年代層に好評のコーナーです。

3面の「新聞わーくシート」は、子どもたちに知ってほしい記事をもとに質問を作り、読者に答えてもらう形式で、記事を読み解いたり、関心を広げてもらおうという欄です。各地の学校の先生の監修を受け、2010年4月にスタート。小中学生はもちろん大人にも人気で、子どもたちもわーくシートを作って応募してくるほどです。

中日新聞 NIE ガイドブック 16

漢字にルビ 驚天の写真

3 2011年10月15日(土) 11月19日(土) CHUNICHI ことウイークリー

地元愛アピール

「地域をアピールして」という願いを込めて生まれたゆるキャラたち。いろいろなデザインで地域の特徴を人形に、あるいはさりげなく表現しています。中部地方のゆるキャラを大まかに3つのタイプに分けてみました。

歴史型

歴史の人物などが由来のゆるキャラが、中部地方には多い。代表的なゆるキャラは、岐阜県飛騨市にある「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」。

3タイプに分けてみた

「歴史型」は、歴史の人物などが由来のゆるキャラ。代表的なゆるキャラは、岐阜県飛騨市にある「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」。

自然型

自然をテーマにしたゆるキャラ。代表的なゆるキャラは、岐阜県飛騨市にある「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」。

産業型

産業をテーマにしたゆるキャラ。代表的なゆるキャラは、岐阜県飛騨市にある「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」の「飛騨市ゆるキャラ」。

101キャラ集合!

101のゆるキャラが集合した。101のゆるキャラが集合した。101のゆるキャラが集合した。

中日 **ことウイークリー** WEEKLY

面白く、ためになる新聞

小学生向けの新聞として人気なのが、毎週土曜日発行の「中日こどもウイークリー」です。タブロイド判12ページで、月決め450円。主な読者として小学4～6年生を想定していますが、その弟や妹も読めるように原則としてすべての漢字にルビを付けています。

1面には、あっと驚くような面白い写真を大きく使っています。2、3面はニュースや話題の解

説。イラストや写真をふんだんに使い、理解を助けます。

4、5面には、子どもの大好きな漫画があります。未来から来た少年と現在の小学生の女の子が過去にタイムスリップし、日本史の大事件などに出くわす「カコ&ミライの歴史トラベル」。作者は漫画家で、岐阜県にある大垣女子短大教授のたなかひさしさんです。

してもらっています。

10、11 面は学習のページ。大手予備校・河合塾の協力で英語、算数、理科を中心に勉強します。英語は紙面に出た英文のネーティブの発音を確認できるサイトもあるから、聴いてみてください。算数と理科は中学受験問題の解説もあります。12 面にはスポーツ選手やタレントのインタビュー、子どものファッション、人気商品などを週替わりで載せています。

8面は逆上がりのやり方、上手に泳げる方法、読書感想文の書き方など子どもの勉強、運動のヒントになるようなコツを紹介する「すご技ナビ」。逆上がりができなかったり、泳げなかったりする子が少しでも上達してほしいと願いを込めました。9面は子育てや思春期の子との接し方に悩むお父さん、お母さんに解決のヒントを与える「親の時間、子の時間」。3人の専門家に交代で執筆

1
2011年(平成23年)7月10日(日)発行
サンデー版+アトビ
世界と日本 大図解シリーズ No.1000

復興・復興

東日本大震災の被災地では復興・復興に向けた取り組みが続いています。暮らしや産業などをどう再建すればいいのか、過去の震災を交えて考えます。

避難所から仮設住宅へ

被災者の住まいの変遷

今日の震災では、ピーク時に約47万人の被災者が避難所へ移りました。希望者全員が一日も早く仮設住宅に入居できるようにするのが先決です。

衆知集めプランづくり

復興・復興にはビジョンや計画づくりが人機要となります。被災自治体がどんなまちを目指すのか、さまざまな住民の意見を取り入れながら一つにまとめるのは容易なことではありません。

生活再建をめぐる主な動き

避難所	仮設住宅	復興住宅
約13万2000人(延べ)	約13万2000人(延べ)	約10万2000人(延べ)
約10万2000人(延べ)	約10万2000人(延べ)	約10万2000人(延べ)
約10万2000人(延べ)	約10万2000人(延べ)	約10万2000人(延べ)

復興・復興に向けた動き

復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き
復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き
復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き
復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き	復興・復興に向けた動き

住の安心 再建はどこに?

北海道南西沖地震

住宅全壊601棟
被害総額約150億円

一部高台移転

新潟県中越地震

住宅全壊3175棟
被害総額約150億円

集落ごと移転

阪神大震災

住宅被害約11万2000棟
被害総額約150億円

二重ローンに苦悩

新聞の「特性」ぎっしり

ニュース図解報道の先駆け

サンデー版大図解(上)

毎週日曜日の新聞に折り込まれているサンデー版で、2ページの見開き紙面で展開しているのが大図解です。1992(平成4)年1月5日にスタートし、2011年7月10日で1000号に達した長期連載企画です。

大図解の原点は91年1月27日に発行された「湾岸情勢大地図」でした。イラクのクウェート侵攻

に伴って起きた湾岸戦争は、当時の日本にはなじみの薄い中東が舞台でした。この地域の基礎知識を地図に載せて読者の期待に応えたのが大地図で、計3回連載しました。各方面から好評を得て、その年の日本新聞協会賞(編集部門)を受賞しました。

その流れをくんで誕生したのがサンデー版大図解です。「見る新聞」を合言葉に、全面カラーで視覚に訴える紙面を目指しました。新聞のビジュアル化の先駆けになったとも言えるでしょう。

19 中日新聞 NIE ガイドブック

中日新聞 NIE ガイドブック 20

わくわく新聞講座、記者派遣

わくわく新聞講座

「新聞に親しみ、新聞学習を通じ社会性を身につけて、生きる力を育んでほしい」という願いから、児童・生徒、学生だけでなく、先生やお年寄りらを対象に「わくわく新聞講座」や「記者派遣講座」を設けて、記者や記者OB、NIEコーディネーターの出前授業をしています。学校、地域への「教育支援」の一環で無料です。

新聞学習の記者派遣を始めたのは、1999（平成11）年の「中日移動新聞学習室」です。小・中学校へ出向き、児童・生徒や先生に、新聞ができるまでの話や「新聞切り抜き作品」（31～38ページ参照）の作り方などを説明しました。中日ヘリコプターも飛行、子どもたちにメッセージを届けてきました。2002（平成14）年になると、記事の書き方やレイアウトの仕方などを説明して、学習に役立ててもらうことに力を入れるようになりました。

それがきっかけで、翌年の03（平成15）年に「わくわく新聞講座」を開設。児童・生徒、大学生、先生から保護者やお年寄りまで対象を広げました。内容は、新聞の歴史や成り立ち、記者の体験談、新聞にかかわる講演会から始まって、記事の書き方、レイアウトの仕方、学校学級・個人新聞作り、新聞切り抜き作品の作り方など新聞学習、新聞活用全般です。講師は、依頼、要望に合わせて打ち合わせをし、派遣いたします。

記者派遣

同様に本社は10（平成22）年度から、現役の記者を学校へ派遣して「出前授業」をしています。新学習指導要領の実施に伴い、学校で新聞や情報について学ぶ機会が大幅に増えるため、そのお手伝いがねらいです。

中学校の教科書では、「新聞の作り方」（国語2

年）や「歴史新聞を作ろう」（社会歴史）、「三年間の歩みを編集しよう」（国語3年）一など、各教科で新聞や情報が、たくさん出てきます。これは、新聞を使ってことばの基本を学ぶとともに、子どもたちの目を社会に向けさせ、情報の役割やメディアの長所、短所を早くから学ばせようということです。

新聞社の仕事はたくさんありますが、紙面制作に携わる編集については、取材部門の記者、本社に集まった内外の記事を取捨選択して紙面を組む整理記者、事件やスポーツなどで臨場感あふれる写真を撮るカメラマンなどがいます。いずれも重要な役割を担っています。

教室に派遣される記者は、取材やインタビューの仕方、原稿の書き方、写真の撮り方、レイアウトなどについてプロの技を教えます。野球やサッ



カーなどを取材している中日スポーツの記者も派遣します。新聞学習の「臨時の先生」と考えてください。ニュースを伝えようという熱意と、豊富な経験を子どもたちの授業に生かしてください。

記者にとっても、子どもたちに仕事の話をすることは、とても勉強になります。教室に出かけた記者に感想を聞くと、「子どもたちの真剣な表情にあらためて取材の責任の重さを感じた」、「（記者は）

取材相手の思いを受け止め、発信する仕事」など、記者の「原点」を見直す機会にもなっています。

講座や派遣といってもいろいろな形態があります。主なものは――。

キャリア教育

中学校で増えるキャリア教育は、就職を見据え、将来の職業選択の一助に行われています。世の中にはいろいろな仕事があり、いろいろな人たちが働いている事を知るには、直接、その人たちの話を聞くことが一番。ある中学校では、地域で働く農家、消防士、看護師、電力会社の人、スーパーの店員らを招き、2時限の授業を展開。職業人は今の仕事の内容を語り、働く誇りを示します。生徒は2つの職種を自分で選び聴講します。将来の自分と重ねて、より就きたい職種を選びます。

ある中学校では、週1回、各種職業の人をゲストティーチャーに招き、全学年の生徒に話してもらいます。2カ月に及び、8人から聴いて、職業選択の参考にします。そうしたキャリア教育の一助として記者を派遣したり、生徒を受け入れたりします。

新聞の読み方

新聞を読みこなすにはどうすればいいか、について話します。中日新聞の場合は、1面には前日あった世界の、日本の一番大きなニュースが載ります。1面を読めば、世の中の動きが読み取れます。2面は「内政面」といい、国の動きや政治が中心です。ほかに国際面もあれば経済面も。地方版は4ページあって、全県通し2ページと、さらに細分化された地域版で構成されます。お母さんがよく読む生活面は中ほどに。運動面のあとの社会面は3ページで展開する日が多くあります。最後のページはテレビ欄。実はこのページが一番読まれています。

小中学生向けのページは日曜付で4ページの「ジュニア中日」。小・中学生が取材記者になり職場を訪問した内容や、子どもたちにも分かるニュース解説や子どもの目線に立った記事がたっぷり。ニュースに親しむきっかけを提供しています。難しい漢字にはふりがなが振られています。4ページ丸ごと引き抜き保存できるのも魅力です。

記事の書き方

教科書に「新聞」の単元が多くあります。例えば東京書籍の『「歴史新聞」で近世をまとめよう』（社会歴史）では、学んだことを新聞にまとめて発信する学習をします。

新聞記事には独特のパターンがあります。5W1H（いつ、どこで、だれが、何を、どのように、なぜ、を織り交ぜる文章）や逆三角形の構成（初めに重要な要素を入れ、徐々に細部に移る文章展開）が特徴です。先生の中には「新聞」について詳しくない人もおり、先生に代わって新聞記者が教壇に立ちます。生徒たちと年齢がより近い新人記者が派遣される場合もあります。

新聞切り抜き講習

中日新聞が進めている新聞切り抜き学習は、中部地方の小中高校の多くで授業に採り入れていています＝詳しくは別項29～38ページを参照。初めて、この学習をしようとする先生や、すでに実践しているがもう少し上達するには、と悩む先生から要請があると、中日新聞のNIEコーディネーターが指導に行きます。テーマの決め方、記事の集め方、整理の仕方、そして模造紙に貼る方法など、細かく教えます。

自分新聞作り

中学校では“マイ新聞”を作るところもあります。修学旅行の事前学習で調べたことを新聞にするケースで生徒が悩むのはレイアウトと見出しです。

そこで登壇するのが整理記者。たくさん集まる記事の山から、そのページに必要な記事を集め、優先順位を決めた上で、新聞1ページ大の大きさの中にレイアウトし見出しを付けてきた経験を話します。時間があれば、これまでに紙面に載った記事の見出しの文言を伏せたコピーを配り、生徒たちに見出しを考えさせる実習も組み込みます。

※記者派遣の申し込みはNIE事務局で受け付けています。電話：052（221）1047か、中日新聞社NIEのホームページ（下記）で申し込んでください。アクセスは、<http://www.chunichi.co.jp/nie/>です。

新聞を教材価格で提供します

中日新聞社は、2000年4月1日から、学校の授業で新聞を活用する場合に「教材価格」で提供しています。対象は、朝・夕刊とサンデー版等別刷りです。ぜひご利用ください。

- **申し込み期限** 購読希望日の1日前（日・祝を除く）
- **配達** 学校始業前にお届けします。
（配達希望時刻が始業前でない場合、もしくは郵送手段を利用される場合を除く）
- **定価（消費税込み）**

新聞名	銘柄	一部あたりの単価
中日新聞	朝刊	30円（5部〜）
	夕刊	15円（5部〜）
	サンデー版等別刷り	10円（5部〜）
日刊県民福井	朝刊	20円（5部〜）

※各銘柄、1日当たり5部以上でお申し込みください

※例えば、中日新聞の朝刊30部を申し込んだ場合
 $30部 \times 30円 = 900円$



• 申し込み方法

購読申し込み窓口：中日新聞社 販売局 お客さまセンター

専用フリーダイヤル：0120-45-4010 専用フリーFAX：0120-49-3758

※購読申し込みは、直接上記窓口でのみといたします。

● FAXで申し込みをされる場合は、下記の項目を明記してください。

- (1) 学校名 (2) 住所 (3) 担当者名 (4) 電話番号 (5) お届け部数 (6) 新聞銘柄（朝刊・夕刊、その他）
 (7) 紙面日付け (8) 配達希望日時・時刻 (9) お届け場所

新指導要領にぴたりの記事DB

中日新聞は、2011（平成23）年度からスタートの新学習指導要領に合わせ、小、中、高校の教育現場で利用していただくため、学校向け「新聞記事データベース（以下DB）」を開発しました。開発目的は、新学習指導要領が児童、生徒の読解力向上のため、授業への新聞の活用を挙げていることに合わせて、学習テーマに沿った記事を検索して、学習資料にし、理解を深めもらうことにあります。社会や国語などの授業で、記事DBを単元に合わせて使えば、インターネットに接続したパソコンで掲載された記事を簡単に検索、表示、印刷できます。

記事DBは、教育現場で使えるように、従来の記事（文字）だけの表示から新たに「記事切り抜き機能」を付け加え、検索でたどり着いた記事を見出し、写真、地図など紙面そのままに切り抜いた形で、印刷できるようにしました。中日新聞日曜版で好評をいただいている「サンデー版大図解」も、紙面そのままにDBから取り出せます。

あらゆるジャンルから

記事DBの第一の利便性は、膨大な収録記事から目的の記事を選べることです。先生が授業で使う新聞記事を探すときは、一般に紙の新聞では1カ月分ぐらいの保存が必要です。事前に切り抜いて保存してなければ、目的の記事を探し出すにもかなりの手間と時間がかかると思います。授業で多忙な中、せっかく新聞活用をしようとしても、できないことがあるのではないのでしょうか。記事DBでは最長25年間まで、指示期間のすべての紙面から目的の記事を数秒で探し出すことができます。政治、経済、社会、文化、スポーツなどあらゆるジャンルの中日新聞と東京新聞の最終版には、約420万件の記事が収録されています。中には紙の新聞では通常、見ることでできない全地方版（中日新聞約55面、東京新聞約16面）の記事

も入っています。したがって、一つのテーマについて全域の記事から探すこともできます。このように網羅性、蓄積性に優れていて、いろんな学習に合わせて使える“生きた教材”として記事を探し出せます。記事DBには日々約800件、月間約12,000件、年間約140,000件の新しい記事が自動追加されます。

教科、単元に即し素早く

第二の利便性は「キーワード検索」で学習テーマに関連する記事を素早く探し出せることです。モデル校で試行利用していただいた例を紹介します。小5、道徳「生命尊重」の単元では、「はだしのゲン」で検索して「ゲンは被爆の生き証人」の記事を教室で配布。戦争の恐ろしさを伝えることができました。中1、社会「日本の広さを調べよう」の単元では、「北方領土」のキーワードで検索、「ロシア大統領北方領土訪問」の記事が、タイムリーな話題で理解しやすかったと好評でした。小5、国語「インスタント食品と私たちの生活」については、「インスタント食品」で検索し、「自然食品の味覚養って」の記事を配布。インスタント食品の便利さ、自然食の大切さについて理解、ディベートの参考資料にもなりました。中3、社会「市町村合併と地域づくり」では「市町村合併〇〇市」で検索した「尾張平成の大合併」の記事が、「この地域がなぜ合併したかよく分かった」と好評でした。

絞り込みで目的の記事を

特定のテーマについても社説や連載を時系列で一覧することができます。例えば「学習指導要領」や「沖縄基地問題 社説」「生きもの地球会議」で検索すれば、過去に掲載された関連する社説や連載が一度にまとめて見ることができます。

複数のキーワードを組み合わせて検索すると、

目的の記事を自在に絞り込めます。例えば、複数のキーワードの両方が入っている（A かつ B の条件）記事を簡単に見つけられます。逆に複数の言葉のいずれか（A または B の条件）が入っている記事を見つけることも可能です。前者の例では「遺跡 ○○市」（AND 検索）と複数キーワードで検索すれば、「○○市の遺跡」に関する記事だけが、後者の例では「自動車貿易 エコカー」（OR 検索）と、複数キーワードを入れると自動車貿易とエコカーという言葉のどちらかが入った記事すべてを探し出せます。「遺伝子組み換え賛成」「遺伝子組み換え 反対」（AND 検索）では賛成、反対の両方の記事を 2 回の操作で探し出せます。紙の新聞の場合は過去の新聞を保存することも大変ですが、それ以上に複数のテーマを組み合わせて探すには、手間がかかることは言うまでもありません。

このように記事 DB は、教科、単元に即したテーマで「キーワード検索」すると、▽時系列▽一覧性▽タイムリー▽話題性▽地域性▽比較・対論ーといった面から、学習の教材になる新聞記事が簡単に取り出せます。

見つけたあとは多様に

キーワード検索で目的の記事が見つかった後

〈記事検索画面〉



は、いろいろな形で使えます。まず、記事テキスト（文字のみ）か、切り抜きイメージを選択して、画面表示します。記事テキストは文字ですので必要であればコピー＆ペーストができ、文章への挿入などに便利です（出典、引用を明記してください）。一方、切り抜きイメージは、見出し、写真、記事、図など紙面をそのまま切り抜いた形で画面表示し、カラー印刷（右ページ下、見本）ができますので、学習資料としての効果は大きいと思います。画面は縮小、拡大も自由で、印刷してワークシートを作成し、教室内で配布できます。

画面のPDF 保存可能

データは標準的形式 PDF になっていますので、画面から手元のパソコンや USB に保存することもできます。学習資料作成に時間がないときは、まず使えるかな？ と思った記事を保存しておき、後でそこから選んで印刷すれば、再度検索から始める手間が省けます。

学校の ICT 化に伴い、PDF データを使ってそのまま大型ディスプレイに映し出して、「帰りの会」や「新聞を読んで」の授業で使っている例もあります。DB から取り出した PDF データは長期間、保存しても劣化せず、目的に応じていろんな使い方ができるのも特徴です。

〈切り抜きイメージ画面〉



サンデー版 大図解 (DB)

学校向け「新聞記事 DB」のメインメニューには、別刷りの「サンデー版、大図解」（以下大図解）も入っていますので、記事 DB と併せて使っていただけます。

大図解は 2000 年から現在まで 10 年間に掲載された約 600 件を収録し、毎週新しく掲載されたものが追加されます。検索は簡単なインデックス検索方式で 10 ジャンル（世界の動き、国内・政治・経済、歴史、科学、自然環境、暮らし、文化・教育食、健康・医療・スポーツなど）と各ジャンル

配下のタイトル一覧から選べます。

大図解シリーズは各テーマ別に広く、詳しく、やさしく図を使って説明してありますので、補助教材として使っていただけます。選択した大図解は画面で閲覧、必要に応じてグラフや図など、全体を A3 サイズで印刷できます。また 4 分割印刷（ポスター印刷）したものを貼り合わせれば、実際の紙面（A1 サイズ）に復元して教室に掲示できます。

このほかパソコンに接続した大型スクリーンに直接、映し出して使うこともできます。

下ページの利用例をご参照ください。

〈サンデー版 大図解検索画面〉



〈サンデー版 大図解 印刷見本〉



救命の連鎖を考える

自然災害による傷害の防止・応急手当の意義と方法

津市西郊中学校 杉本 順子

狙い

①自然災害（一次災害・二次災害）で生じた傷害の発生要因や、防止、応急手当の手順・方法を理解できるようにする②傷害防止には備えが大切なことを理解する③学習した知識や実際の災害から学んだことなどを新聞記事を使いながら、『災害への備え（必要なこと）』や『自分たちに出来ること』を考え、模造紙にまとめて発信する—の3点。

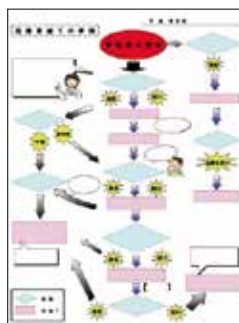
1. 学習計画（3～5時間）

〈授業の展開例〉

保健分野：傷害の防止

（自然災害の一次災害と二次災害・自然災害による傷害の防止・応急手当の意義と方法）

学習内容と活動	生徒の関心・意欲・態度・知識理解
台風・地震などの 自然災害について考える * 自然災害を理解する * 新聞記事を活用する * 事前に考えた「自然災害について」のワークシートを活用する 自然災害から発生する傷害を考える * 災害発生時に起こる被害から傷害につながるもの考える * 災害時の行動・情報活用を考える ・自ら学びを振り返り、成長を実感して新たな課題を発見する「ウェビング」で、災害時に必要なことと傷害に対する応急手当の必要性を導き出す 応急手当の必要性・手順を理解する * 心肺蘇生法の意義と方法を知る。心肺停止に陥った人への応急手当を実習して理解する * AEDについても知る ・新聞記事を活用し、AEDによって命が救われていることを理解する * 心肺蘇生法以外の応急手当を、実習を含め理解する	* 東海・南海・東南海地震を意識し授業に取り組む * 自然災害による被害と一次災害・二次災害によって傷害が発生することを理解する * 新聞の記事から『知識の習得と行動（実践）』が大切なことを確認する * 災害時の被害を最小限にする安全確保の方法を考える * ウェビングをして、自然災害から起こると考えられるさまざまな状況やそこから見えてくる課題を認識し、正しい知識や応急手当の重要性を理解する * 応急手当の流れ（心肺蘇生法の手順）を確認する * 傷病者の発見以降に必要な救命の手順〈応急手当〉をグループで話し合い、正しい知識の習得・心肺蘇生法の意義と方法（実習含む）を意欲的に理解する * AEDの使用方法・設置場所等にも関心をもつ



学習したことから『自分たちの気づき』『災害への備え』や災害発生時に『自分たちに出来ること』をまとめて発信する

＊身近に起こった台風の被害や東日本大震災等の新聞記事を使って学習のまとめをする

＊ウェビングから見えてきた、自然災害発生時の応急手当など救命の連鎖・災害時の安全を確保するための備えなどを考える

・実際の災害被害から『自分たちの出来ること』を模造紙にまとめて発信する

2. まとめ

学習の中で新聞記事を活用して、タイムリーな内容・データが提示でき、授業への興味・関心を持つことにつながりました。授業で新聞を活用する利点は、テレビなどの報道とは異なり、活字や写真によって情報が消えることなく保存でき、何度も読み返すことが出来ること、同じテーマの情報を記事の読み比べをしながら収集できることにあると考えられます。今回の授業でも、新聞を熱心に読む姿が多く見られました。特に新聞を読む習慣のない生徒や新聞を購読していない家庭の生徒は熱心に読んでいました。新聞記事を読むだけに終わらず、関連のある記事を探そうとする姿や、分からないことを詳しく調べる生徒の姿へもつながっていたようです。授業にウェビングを取り入れて、今回の『自然災害による傷害の防止』『応急手当』の授業内容を生徒たち自身で結びつけていくことができ、授業への関心も高まりました。班活動でも、それぞれが選んだ記事をもとに、話し合いを活発に行う姿が多く見られました。

今回の授業を通して生徒の話を聴いていると、多忙な生活の中でテレビから情報を得る時間的な余裕はないようです。しかし携帯電話などを使ったネット情報は入手が簡単なようで、自分の興味関心のあることには詳しい生徒もいます。簡単に情報が入手できる時代なのに、知らないことが多い生徒や知識に偏りのある生徒が少なくないとも感じました。さまざまな情報が一度に入手できる新聞は、インターネットの発達など情報社会で、多角的な物事の見方を身につけ感情を揺さぶることの出来る教材になる可能性がある、生徒の様子から感じました。今後もじっくり新聞を読んで、自分と向き合い考える教材の一つとして活用していきたいと思います。

課題は、新聞を購読している家庭が少なくなってきたので、新聞記事を教師が切り抜いて収集しておく必要があることです。しかし、それは生徒の興味関心や生徒自身の課題設定につながらないので、新聞記事の提示方法を考えていく必要があると思います。



【関連教科】(理科) 活着ている地球・2章大地がゆれる (家庭) 2章住生活と自立③安全に住むためにはどうしたらよいだろう

大震災で「命」、生き方を考える

愛知県あま市七宝北中学校 豊田 久晴

狙い

東日本大震災について作成した新聞切り抜き「私の視点」を発表する。大震災を身近な問題としてとらえ、命について見つめ、いかに生きるべきかを考えさせる。

1. 関連

(1) 新聞の作り方学習

- ①学活⇒テーマを設定して、テーマに合わせた情報の収集
- ②総合⇒記事を読み取り、テーマに沿った構成を考え新聞切り抜き作品作成

(2) 新聞活用学習（本実践）

道徳⇒出来上がった作品発表と教師の講話

2. 実際の活動

(1) 活動の狙い・目標

【道徳的価値項目】命の大切さ

【学習の目標】各班の東日本大震災の新聞切り抜き作品の発表を聞くことを通して、命の大切さについて知る。

(2) 実践

①想起

これまでの活動を振り返り、それぞれの班のテーマで発表を確認する。



②追究

タイトル「地震・写真→ボランティア→国の対応・経済→原発・放射能」の順番で班ごとに発表する。

【活動の様子】



【生徒発表原稿】

（抜粋）今回の震災で多くの方が命を落としました。涙を流し、生きていこうと決意したことでしょう。震度7の揺れは、数え切れないほどの命を奪っていきました。命それはたった一つのかげがえのないものであり、親からいただいた大切なものでもあります。今回、震災にあって、亡くなられた方のためにも、決しておろそかにあつかってはいけないと思います。そして、限界まで、最後の最後まで、私たちの命を自分たちで守っていこうと強く思いました。

2クラス12の班が3分の時間を用いて各班のテーマに沿って発表する。



③内省 教師からの講話と保護者からの手紙

教師の講話

石巻市立大川小学校は、海から5kmの位置にあり、北上川の川沿いに立つ。自然あふれる全校108人、職員をあわせても120人ほどの学校である。3月11日に発生した東日本大震災で地震直後、校舎のガラスは割れ、校庭に避難した。そこを北上川を津波が一気に逆流し、職員・児童120人がその被害にあう。児童108人のうち74人、職員13人のうち10人が死亡・行方不明者となる。その84人のなかの一人に狩野愛さんという児童がいた。

行方不明の愛さんを探す日がこの日から始まる。父は母は毎日毎日、愛さんを捜した。11日から過ぎること49日間も捜した。この日は49日目ということもあり、被災地では供養式が行われた。狩野さんは遺族代表で祭壇に立った。そして、84人の遺影の前で、娘の遺影の前でお別れを告げる。その式が終わった時、携帯電話が鳴った。



2011年
4月29日
朝日新聞 朝刊より

創作詩「おかえり」

父は母はあきらめない。娘は生きていると。決してあきらめはしない。娘を捜しに出るときは娘が好きなものをもって出る。娘を強く思う事がきっと引き合わせてくれると信じているからだ。

父は母はあきらめない。四十九日目の供養式。84人の笑顔の遺影に向かって、みんなに先生にそして娘に別れを告げて、父は母は決してあきらめはしない。供養式のその日も娘が好きだったおにぎりとお餅をもって長靴にはきかえる。娘は絶対に生きていると信じて。そんな時、携帯電話が鳴る。学校の近くの寺で愛さんらしき人が見つかったという。複雑な思いで指定された場所へ。身元確認をした母は言う。

「愛だ。色は変わってしまったが足にはめていたミサンガは愛のものだ 愛だ」
変わり果てた娘を見た母は言う。「おかえり」と。父は言う。「この日を待って 娘はかえって来てくれた」と。二人は言う。「一日でも一緒にいたいのです。せめて一晩でもせめて二晩でも、一緒に家族で過ごしたいのです」と。待ち続けている家族がいる。だから二人は言う。

悲しみにぬれている家族がいる。まだ捜している家族がいる。まだ会えないでいる家族がいる。まだあきらめられない思いを持ち続けている家族がいる。待ち続けている家族がいる。だから二人は言う。『よかった』とは言えません。まだ同じ思いをしている人たちのその気持ちを考えたら『よかった』とは言えません」と。

生徒に創作詩を読ませた後、事前に保護者から今日の授業のために書いていただいた、命に関わる手紙を配布。今日の授業を振り返り、保護者の手紙を読み、今の自分の気持ちを手紙という形で書かせ、余韻にひたらせる。



新聞切り抜き作品を授業に生かす

岐阜県土岐市駄知中学校 細江 隆一

狙い

新聞の切り抜き作品作りを通して、中学生の書く力、読む力、言葉の力の育成を図ります。

作品を制作するまでの流れ

- ① 一分間スピーチの実施
- ② 新聞を活用し、国語の授業で作文を書く
- ③ 新聞切り抜き作品作り

一分間スピーチの実施

朝の会で一分間スピーチをしています。これは新聞記事を毎日読んでもらいたいという私の願いと、生徒には新聞記事の内容を要約して意見を書く力を身につけてほしいという願いからです。



生徒は毎日自分がスピーチしやすい新聞記事を切り抜き、所定の用紙に貼ってきます。用紙の下には新聞記事の概要と、それについての意見を記入する箇所があって、そこにも記入します。翌朝には仲間の前でスピーチをします。

スピーチがマンネリ化しないように次のような、ステップを作っています。

ステップ1

新聞記事を見せた後、概要と意見を見ながらスピーチ

ステップ2

新聞記事を見せた後、概要と意見をちらっと見ながらスピーチ

ステップ3

新聞記事を見せたまま、仲間の方を見てスピーチ

生徒は自分の力に合わせてステップごとにスピーチをします。最初はステップ1からスタートとなりますが、回数を重ねるうちにステップ2、ステップ3とレベルを上げていく生徒が出てきます。そうした生徒に刺激を受けて、他の生徒もステップを上げようと努力します。その繰り返しの中で、生徒は自分の力をアップさせていきます。

現在の中学校に赴任して3年間、毎年担任するクラスで1分間スピーチを続けています。生徒もそれに慣れてきたのか、「先生が担任になると、スピーチをやるんだよね」とうれしそうに来る生徒もいます。今年度は同じ学年の全クラスで一分間スピーチをしていますので、生徒の意識が高くなっています。今後も続けたい活動の1つです。

新聞を活用し、国語の授業で作文を書く

説明文教材の後の発展学習で、意図的に作文の時間を組んでいます。例えば「メディア社会に生きる」(『国語3』光村図書)では、発展学習として「メディア」をテーマに作文を記述しました。この教材では筆者の主張があるので、主張に対する自分の意見として作文を書きました。

この授業を受けた後、生徒の作文を新聞社に投稿しました。その結果、ある女子生徒の書いた作文が新聞に掲載されました。

情報の見極め、受け手も必要

（前略）新聞や本は誤った情報を掲載することは少ないと思う。得た情報を慌てて流すのではなく、情報が正しいかどうかを調べているからだ。

私たちのように情報を受け取る側も、同じことが言える。全てをうのみにせず、正しいものを見極めていく。そうしないと、情報に踊らされ、被害を受けてしまう人が出てしまうかもしれない。私たちは情報を見極める目を養わなければならない。

<中日新聞 2011年7月1日>

学校には毎日各社の新聞が届けられるので、新聞の比較もしました。その中で「同じ内容なのに、新聞社によって書き方が違う」という声が生徒からもあがりました。生徒は新聞に対する興味・関心を強く持った様子でした。

新聞切り抜き作品作り

1 分間スピーチや新聞を活用した国語の授業を通じて、最終的に新聞切り抜き作品の制作に入ります。ただ、切り抜き作品は一朝一夕にはできないので、以下のような流れで取り組んでいます。

- 一学期から班でテーマを決め、ファイルに新聞記事をストックしていく
- ある程度たまったところで記事を整理する
必要な物と不必要なものに分け、整理する
- 国語の時間、昼休み、学級活動といった空いた時間、放課後などを使って新聞の切り抜き作品に挑戦する
- 完成した作品は国語の時間にプレゼンテーションをして、仲間の前で発表する

中学校はなかなか時間を確保しにくいですが、事前にファイルに記事をためておき、やり方を教えれば生徒が作品を作るのも時間はかかりません。すでに1分間スピーチや国語の授業で新聞への抵抗感はなくなっています。記事の要約が得意になっている生徒は、短時間で作品を仕上げていきます。

切り抜き作品は新聞記事を選択し、レイアウトをして模造紙に貼り付けることからスタートしま

す。その後、記事への意見と、まとめの感想を記



入すれば完成です。何も知識がないところからスタートすると、これには膨大な時間を要しますが、新聞に対する興味・関心と、方法がわかっていれば、時間も短縮できます。

要は、時間をいかに確保して、いかに計画的に進めていくのかを工夫すれば、容易に新聞切り抜き作品を制作できます。

<今後の課題>

2012 年度からは中学校でも新指導要領が実施されます。国語科で言えば、新聞活用の教材が増加するので、教師としては新聞に無関心ではられません。すでに各新聞社は紙面に「子どもたちのページ」や「NIE のページ」を作って準備を進めています。これを教師が活用しない手はありません。

問題になるのは、やはり NIE のための時間の確保でしょう。中学校だと放課後は部活動が入るし、雑務も多々あります。時には生徒指導もあります。土日でも部活動などでなかなか自由がきかない辛さを抱えています。ある程度の自由がきいた総合的な学習の時間も、選択授業の時間も、12 年度からはあてにできなくなります。

そうした状況の中で新聞を活用するためには、教材研究、教材開発、指導案の作成などに、より時間を割く必要があります。時間を計画的に、上手に使うことも必要です。これを厭（いと）わなことが教師に求められる力だと思います。NIE を「忙しいから実施するのは諦めよう」と思うのか、それとも「生徒に力を身につけさせたいからやってみよう」と思うのかが、NIE が生徒に浸透するかしないかの分かれ目でしょう。

新聞記事で作る保健だより

福井県・敦賀気比高校附属中学校 坂本 理香

狙い

目標と新聞活用の意義

保健だよりを新聞記事を使って制作し、新聞を情報源として活用することを学びます。

健康や医療の最新情報、いじめや虐待、性被害などの社会問題、福祉・ボランティア、東日本大震災のような国全体を巻き込む事象の記事などから、命の重みや家族の絆を見つめ「生きる力」につなげることができます。特別活動の生徒会活動（専門委員会の生徒保健委員会）として年間指導計画に位置づけています。

○「保健だより」は生徒による生徒のための健康広報紙

保健委員が作成する「保健だより」は委員の生徒自身が作成の段階で学び、全校生徒への広報で知識や情報を広く伝えられるといったメリットがあります。

○新聞は「生きる力」の宝庫

生徒が選んだ「新聞切り抜き保健だより」の多彩なテーマです。

新学習指導要領の教育目標と内容に照らしたタイトル分類

『公共の精神、社会の形成に参画する態度』

- ・オリンピック 北京へ向けて
- ・あなたは裁けますか？
- ・人と人との助け合い

『心身ともに健康で安全な生活態度や習慣』

- ・人生をおびやかす薬物・アルコール
- ・感染性に気をつけて！
 新型コロナウイルス
- ・糖尿病、メタボ、ガン
- ・夏の健康・熱中症を防ごう

『東日本大震災に関連して』

- ・支え合おう日本、
 明るい未来をめざして
- ・震災後の復興～絆

『生命や自然の尊重、環境の保全』

- ・守りたい笑顔
- ・NO！虐待
- ・自然災害
- ・地球環境
- ・ペットの命を握るのは…
- ・身近な医療とつながる命
- ・臓器移植～人体を補う技術

『食育・望ましい食習慣の形成』

- ・日本国民の不安 食問題
- ・福井のオリジナリティーな食

『思春期の不安や悩みとその解決』

- ・ネット社会、すぐそこにあるいじめ
- ・敵か味方かネット社会
- ・禁止より教育を！有能メディア・ケータイ

「新聞記事で保健だより」制作手順～活動展開と留意点

- ①新聞をストックしましょう。3カ月分程度、できれば数社の新聞が用意できるとよいでしょう。
- ②先生も新聞に目を通してください。目にとまった記事があれば、印をつけたり、切り取っておきましょう。さらにテーマごとに分類しておくことで作業の導入がスムーズになります。切り抜き記事のサンプルは、テーマや記事を選択する助けになります。



- ③制作班を編成します。3人までの少人数がまとまりやすいようです。
- ④台紙は模造紙を使います。マス目の入ったタイプだと記事を貼る位置が定まりやすく、作業が容易です。
- ⑤記事は大、中、小各5枚ずつ、15枚程度がバランスよく仕上がります。



- ⑥記事を色画用紙の上に貼って小見出しごとに区分けしたり、ポイントだと思う箇所にマーカーを引くとメリハリが付き、自身も理解しやすくなります。
- ⑦メインタイトルは8～12文字程度で考えてみましょう。タイトルを見れば内容が伝わってくるような題目を目指してください。

- ⑧新聞に掲載されているものであれば記事以外の広告なども活用してみましょう。記事そのものでなく、記事の見出しのみを使用してアクセントにする手法も効果的です。



- ⑨新聞以外の印刷物は使わないようにしましょう。自分でイラストなどを描くのはOKです。
- ⑩できあがった作品は展示して他の生徒への啓蒙（けいもう）活動に活用します。生徒から生徒へ発信するメッセージは生徒同士が学び合うという「ピア・エデュケーション」。新聞による生徒間相互の保健学習とも言えます。



教育効果～生徒の感想から～

- ・リアルタイムな記事から公民の授業で学んだ臓器移植のことが他人ごとではないと認識した。ドナーカードをどうしようか考えた。
- ・ペットの飼育放棄、警察犬、介助犬の記事を集めた。犬、猫の命も人と同じに尊い。人間の勝手で粗末にしてはいけないことを訴えたい。
- ・自然災害からの復興が人と人の絆に支えられていることを学んだ。

新聞切り抜き作品を作ろう

長野県大町市美麻中学校 中山 実

狙い

活字離れが社会問題化しつつある現在、どの家庭にも当たり前のように毎日届けられる新聞を利用した学習は、子どもたちの学力を高める上でも、人間としての視野を広める上でも、大きな可能性を持っています。全学年の単元学習として取り組みました。

新聞切り抜き作品作りは ①取材する力（記事集め）②課題を決める力（テーマ決め）③発表する力（明確な主題）④構成する力（レイアウト）⑤表現力—など、国語科で求められる表現力の全ての要素が得られ、成長を期待できる活動です。作品作りを、意見文やスピーチ等の活動につなげて行くことができ、広がりのある学習活動が可能です。中日新聞のコンクール応募で、作品が評価されれば、児童たちの励みとなります。「総合的な学習」にもつなげることができます。

1. 単元の流れ（全 14 時間）

事前	1. 記事を集めよう 毎日、新聞を読み、必要な記事を切り抜きファイルしておく。ニュース記事だけでなく、社説やコラム、投書欄など広く紙面全体に目を通して記事集めをする	（学習単元に入る前に） ○一定の期間、ニュース記事を追っていくと、だんだん真実が見えてくる 例・北朝鮮の韓国領への砲撃事件 …事件発生から結末まで ・中国の高速鉄道事故…その処理やその後の動き ・台風の被害…その大きさや原因、その後 ・猛暑の影響ほか
導入	2. テーマ（課題）を絞る 集めている記事で、関心のあるものをスピーチで紹介する 使う記事を大封筒に入れておく →封筒にテーマを書く	○情報を絞って、集める 例・環境問題を考える ・地球温暖化、増える産業廃棄物など ・東日本大震災からの復興 ・福島原発事故からの復旧
	3. 過去の優秀作品から学ぶ 感想の書き方、重要な記事に傍線を引く、蛍光ペンでマーカー付け、全体の流れなど、参考にしたいことを発表する	○中川雄太君の作品の良さを説明する 見出し、構成、分析、主張、レイアウト、描写など
	4. テーマ決定 封筒に大見出しを書いてみる	○自分の主張したいことを1文で、端的に書く

制 作	5. 材料の取捨選択 内容の読み取り、要約、感想、意見を書く（カードにメモ）自分の考えをまとめる 	○ニュースの背景を探りながら ・解説記事で、地図で、教科書で、辞典で 例・原発の仕組み、日本や世界の原発事情 ・社説やコラムで新聞社の意見を知る ・読者の投稿を参考にする ・意見や解説は簡潔にまとめる
	6. レイアウト（構成）を考える 見出しを工夫する。カラーペンやポスターカラーで記事が目立つように工夫する。カットを入れる 	○模造紙に記事を置きながら ・いくつかの記事をまとめ、小見出しをつける ・内容が分かるような表し方 ・新聞の見出しの書き方を参考に 例・ストップ・ザ・地球温暖化 ・災害から立ち上がる子どもたち ・最悪の悪夢 光が消えた町
ま と め	7. 清書する 8. 発表する お互いの作品を見合い、聞き合い、良さを中心に意見交換する 	○主張、工夫を中心に自分の参考になるところを見て、聞き取ろう ○誤字脱字、応募規定にあった記名など
事 後	9. 発表会の助言をもとに見直し、手入れをして完成 コンクール応募 	○優秀作品を校長室前に展示紹介 発送 

2. 成果と課題

新聞切り抜き作品は記事を主体にした『私の新聞』です。他人のまねごとでない、自分だけの作品を制作する過程での学習は、他の学習でのあらゆる場面に生きます。この学習を機会に、毎日、新聞に目を通す生徒が増えています。新聞に目を通すのが当たり前になったとか、新聞はおもしろいといった生徒が出てきています。ただ、新聞が家に届かない生徒が増えてきているので、学校で読めるような環境作りが必須となっています。常日ごろから、教師自身が新聞記事をもとにした話をしたり、紹介したりするという活動が重要になってきます。

新聞切り抜き作品作りの意義

'94 年に取り組み開始

「探求力生かせた」「社会見る目鋭く」「伝えたい思い凝縮」「身近な視線大切」―これはかつて、中日新聞が新聞切り抜き作品の入賞者を紹介した特集ページの見出しです。本社は1994年から本格的にNIE（教育に新聞を）に取り組み、学校での新聞教育活動を支援してきました。その取り組みの大きな柱が「新聞切り抜き作品コンクール」です。2012年度で19回目の募集になりました。始めた当初、作品の応募点数は2000点弱でしたが、いまでは9000点を超え、作品のレベルも格段に向上しました。徐々にですが、コンクールの趣旨や意義が認められている証しではないかと思っています。

まずテーマを絞ろう

新聞切り抜き作品作りは、中日新聞社が独自に考案した学習方法です。コンクールの募集は、初め小中学生が対象でした。それを00年度から高校生にも対象を広げ、04年度からはファミリーの部を設けました。親子で切り抜き作品作りに挑戦してもらい、家族でコミュニケーションを図りながら共同制作することによって「絆」を深めてほしいという狙いです。将来的には、生涯学習を念頭に置いて、子どもからお年寄りまで、より幅広い年齢層を対象にコンクールが開催できると考えています。

作品の作り方は、簡単にいうと、まず新聞を読み、テーマを決めて関係した記事を切り抜きます。それに見出しを付け、レイアウトをしながら模造紙（B紙）に貼りつけ、制作者の意見や感想を書き込んで新たな「新聞」の形に再構成するのです。「新聞の記事を使って新聞を作る」

と考えていただくと、少しイメージが湧くかもしれません。学校の授業は、先生の「指導」という「受け身」の展開になりがちですが、この作品作りは子どもたちが新聞で「自ら課題を見つけ、解決する学習」といえます。「新聞活用」の手法としては、極めて優れた方法です。

「社会性」が身につく

その理由は、子どもたちが新聞を通じて社会に関心を持ち「社会性などを身につけてもらうのに効果がある」と考えているからです。子どもたちが学校を卒業して社会人になったとき、大人と対等にコミュニケーションができ、迷うことのない成人になることを願っているのです。これは、文部科学省が教育で目指している「生きる力」を育



むことにもつながります。

作品は、新聞を読まないといけません。いろいろな記事を読みますから、知らず知らずのうちに文章の内容を読み解く「読解力」が身に付くでしょう。漢字力、文章力も向上します。作品の構成を



生涯学習の教材にも

新聞は「生涯学習」の教材にもなります。小さい時から新聞に親しむ環境作りが大切だと考えています。切り抜き作品作りは、新聞を継続して読み、幅広く紙面に目を通さなければなりません。着眼力・構成力・伝達力が必要で、学習指導要領が求めているものを備えた指導法ともいえます。

作り方の手順、ポイントはどこに置いたらいいのか。初めて取り組む先生や子どもたちは、戸惑うようです。まず、新聞のスクラップが基本になります。単なるスクラップ作り

ではありません。新聞記事を使った自分新聞作りです。テーマを決めて記事を集め、読み解き、自分の考えまとめ、B紙1枚にレイアウトして発信する勉強です。ですから「1日10分間の新聞読み」からのスタートです。子どもが興味を持って取り組めるテーマを探させるのです。低学年では写真から始めると、とっつきやすいでしょう。テーマは、内容が一目でわかるように、短い言葉でズバリ表現させるとよいと思います。

作品作りには、最後までやり遂げる「忍耐力」が必要ですし、長年の経験から1年だけでなく2年、3年と継続して取り組むことが、大きな成果につながると感じています。

考えデザインしますから「デザイン力」や「創造力」が高まるでしょう。もっと大切なことは、自分で決めたテーマにそって記事を探していく過程で、自らの課題を見つけ解決する力を養うことにもなります。

当初、この作品作りは「小学生には難しいのではないか」という声がありましたが、写真を中心にした「秋みつけた」や「新聞すごろく」「新聞かるた」など、現場の先生の創意と工夫で、小学校低学年でも指導の方法次第でできることが分かりました。小学校高学年や中・高校生になると、自主的に社会問題や政治、国際問題などと取り組み、情報を読み解く力「メディアリテラシー」を育む有益な機会にもなっていて、多くの先生の共感を得ています。

学校ぐるみの参加も

教育界全体から見ればまだ、作品作りの実践が十分に広がって認知されているとはいえませんが、豊橋市立青陵中学校などでは理解のある保護者にも恵まれて、全校生徒による作品作りを続けています。3回目のコンクールから今日まで、社会科の先生全員の指導で作品作りが続いて、大きな成果を上げています。今後、こうした学校が次々に出てくることを期待しています。中学生や高校生には、青陵中学校生のように「ニュースから事実をつかむ。ニュースの背景を知る。社説やコラムで考え方を知る。意見欄で読者の関心度や考えを知る」ことを指導したいものです。



新聞切り抜き作品教室で作品作りをする子どもたち
(写真はいずれも中日新聞社で)

切り抜き作品の募集要項

新聞で新聞を作ろう

中日新聞社が「新聞切り抜き作品コンクール」の募集を始めて丸18年になります。初めは、小、中学生が対象で、7回目から高校生も加わりました。ファミリーの部も「親子で作って心の触れ合いを」と11回目に新設しました。中部9県の県教育委員会と名古屋市の教育委員会の後援です。募集要項は次の通りです。

新聞切り抜き作品コンクール

中日新聞社は、中部9県の小中高校生を対象に、新聞記事を切り抜き、模造紙（B紙）に新聞のように再構成して編集した作品を募集します。

主催	中日新聞社
後援	愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山の各県教育委員会と名古屋市教育委員会
作品	自分でテーマを決め、テーマにそった新聞記事を集める。 ●レイアウトを考え、切り抜いた記事を配置する。見出しや説明を付けて、内容が一目でわかるように工夫し、台紙（模造紙・B紙約80センチ×110センチ）にはる。 ●個々の記事に対する考えのほかに、まとめの意見や感想を書く。 ●台紙に裏打ち（紙テープで補強）し破れないようにする。 ●記事を重ねて貼るなど立体的な構成にしない。 ●送付の際は丸めずに四つ折りで。
応募	個人かグループ（1作品3人以内厳守）
切り抜きに使う新聞	中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井、中日スポーツのほか、家庭で購読している新聞。雑誌の記事や写真は使わない。
締め切り	毎年1月10日ごろ
応募方法	作品の裏面右下に、作品名、学校名、郵便番号、学校所在地、電話番号、学年、児童・生徒名、指導の先生名を記入。個人応募の場合は、自宅住所、郵便番号、電話番号も書く。作品は原則として返却しない。
送り先	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6-1 中日新聞社新聞切り抜き作品コンクール係 電話：052-221-1047 FAX：052-221-0857
表彰	中日大賞、優秀賞、入選、佳作、努力賞のほか、応募者全員に参加賞を贈る。
紙面発表	2月中旬に中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井の各紙面で発表の予定。入賞した児童・生徒と指導の先生を表彰する。
作り方	中日新聞のNIEホームページ http://www.chunichi.co.jp/nie/ の「新聞切り抜き作品づくり」というコーナーに説明がある。
講師派遣	作品の作り方など詳しく知りたい学校には、講師を派遣する。
※お断り	応募作品や入賞者名簿、写真などは、新聞、電子媒体に掲載することがあります。

新聞切り抜き作品コンクール ファミリーの部

家族と一緒に挑戦してみよう。中日新聞社は、新聞切り抜き作品コンクール第9回ファミリーの部の作品を募ります。

主催	中日新聞社
後援	愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山の各県教育委員会と名古屋市教育委員会
対象	中部9県の小学生と、その家族
作品	家族で決めたテーマにそって、集めた新聞記事の切り抜きを1枚の模造紙（約80センチ×110センチ）に、のり付けして作る。見出しや説明をつけ、一目で内容が分かるようにレイアウトし、意見や感想を書き込む。記事を重ねるなど立体的な構成にしていけない。家族で作ったというイメージが作品のポイントになる
切り抜きに使う新聞	中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井、中日スポーツのほか、家庭で購読している新聞。雑誌の記事や写真は使わない。
締め切り	毎年1月10日ごろ
応募方法	作品名、共同制作した子と親・祖父母の名前、住所、郵便・電話番号（あればファクス番号も）、学校名、学年を作品の裏面右下に書く。送付の際は丸めずに四つ折りで。作品は原則として返却しません。
送り先	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6-1 中日新聞社新聞切り抜き作品コンクールファミリーの部係 電話：052-221-1047 FAX：052-221-0857
表彰	中日大賞、優秀賞、入選、佳作を選ぶ。2月中旬に、中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井の各紙上で発表し、作品を作った家族に賞状と記念品を贈る。
作り方	中日新聞NIEホームページ http://www.chunichi.co.jp/nie/ の「新聞切り抜き作品づくり」というコーナーに説明があります。
※お断り	応募作品や入賞者名簿、写真などは、新聞、電子媒体に掲載することがあります。

新聞学習カリキュラム

中日新聞社には「新聞学習カリキュラム」の小学校編と中学校編の冊子があります。2007年から順次、1万部ずつ発刊しましたが、既に初版は保存資料分しか残っていません。09年秋に小学校編を5000部増刷。中学校編もほぼなくなり、増刷を予定しています。

冊子の発刊は「NIEをどう活用、展開したらいいのか？カリキュラムがほしい」という、現場の先生の切実な願いを耳にしたのがきっかけです。過去に学校で新聞を活用する実践事例はいくつもありましたが「新聞学習カリキュラム」として、教科を越え体系的にまとめたものは、目にすることがありませんでした。

本社NIE事務局でも、小、中、高校の先生に実践事例の原稿を書いていただき「先生が作った新聞事例集」として過去に冊子を発行していました。1万部を印刷、中部9県内の学校や、興味のある先生に無料配布しました。事例集作りはいま中断していますが、実践事例は本社のNIEネットで公開していますので、ご覧ください。

中日新聞がカリキュラム発刊を計画した当時は、教育学部系の大学教授が中心になって「日本NIE学会」を設立し、理論化と体系化を図ろうと、動きだしたばかり。ですから日本にはまだ、系統的なNIEカリキュラムは存在しなかったといえるでしょう。

そうした状況下で、後先も考えず小、中学校のカリキュラム作成に踏み切ったのです。06年5月、小学校編のNIEカリキュラム編成委員会を立ち上げました。小学校の先生や本社NIEコーディネーターに参加いただき、子どもの発達段階に合わせたカリキュラムを作りました。

「新聞学習の目標をどこに置くのか」で、当初から壁にぶつかりましたが、激論の末「新聞で今を知り、考え、未来を拓（ひら）く人間の育成」と決まり、動き出しました。

内容は、成長段階に合わせてどのように新聞活用をしたらいいかも議論になり、小学低学年、中学年、高学年に分けて「親しむ」「読む・知る」「考える」「発信する」と、段階的に高める構成にしました。活用法は高学年で高レベルの事例が出てきて、中学、高校生でも十分活用できる中身です。

中学校編は、翌年の07年5月に作成委員会を立ち上げ、新聞学習をひとつの「教科」と想定したカリキュラムを目指しました。委員には、やはり中学、高校の先生とコーディネーターの協力を要請。小学校編を踏まえて作ることになり、新聞の特色を生かした構想図をまとめてあります。

具体的な内容は、文章、見出し、写真、図・マンガ、広告、全般の6項目に分け教材化を図りました。「知る」「読み解く」「考える」「発信する」という学習段階を踏まえ、事実把握から始め「関連思考」「価値判断」「自己表現」へと認識を深めて行く構成です。ただ、中学校編は小学校編とは違い、学年別の考え方をやめ、認識の深化に視点を置き、どこからでも活用できます。内容は、小学校高学年や高校でも活用できる中身です。

新聞を学習の資料として使う先生は、戦前からいました。いまでも結構いると思います。それは「教材の一部」としての活用の仕方でした。でも、これからは「教科のひとつ」というくらいの認識と展開が求められてもおかしくないでしょう。

というのは「言語能力の低下、希薄な社会的関心」という教育的な社会背景が存在します。児童、生徒の社会的関心を呼び起こすには「今」を伝える新聞が最適です。「教科」「選択教科」に新聞学習が入る余地はありませんが、この時代にカリキュラムの形で提示した意義は大きいと思います。

文部科学省も学習指導要領を改訂、教科書の内容を小学校で11年4月から一新し、12年に中学校、13年に高校と、順次更新します。小学校の教科書には「新聞記者になろう」、中学校では「新聞の作り方」などが登場しました。高校でも新聞学習内容が何らかの形で取り込まれると推定されます。

新聞学習カリキュラムは、NIEの授業を進めるひとつのモデルとして作成しました。後は、先生が、授業にどう生かしてくださるか、にかかっています。

新聞記事の情報で新聞づくり

静岡県磐田市神明中学校 横井 純夫

狙い

世界や日本の諸地域の学習で、興味関心のある地域に関する新聞記事を収集して、読み解く力を育成します。記事内容を情報ととらえ、一般紙の紙面レイアウトを参考にして、縦長に組む学習新聞をつくることができるようにします。

1. 学習新聞づくりの位置づけ

学習指導要領では、新聞を授業で使う意義を明確にしています。教科書でも新聞の形に学習のまとめをすることをすすめています。

教育出版の歴史の教科書 P.46 に「古代の特色を歴史新聞にまとめよう」と、P.247 に「歴史新聞第3号」（郷土の歴史を探ろう）があります。また、東京書籍の歴史 P.129 に『歴史新聞』で近世をまとめよう」があり、地理の P.109 にも「世界の調査結果を壁新聞にまとめよう」と書いてあります。公民の P.148 国際社会と世界平和の単元には直接新聞づくりではないが、「世界の現状を

表す地図に表題をつけよう」「写真は何を表した写真で、どの地図と関連するか」という課題が提示されています。単元のまとめを新聞のかたちに縦長に組む学習活動することは、こうした課題解決の能力を養うのに効果的と考えます。

社会科の地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野の学習新聞ができます。ここでは、地理的分野に関する新聞記事づくりを例に紹介します。

新聞の紙面構成は、中日新聞 2011 年 12 月 6 日の場合、1 面トップ、2 面 3 面総合、4 面広告、5 面社説・発言、6 面国際、7 面広告、8 面 9 面経済、10 面 11 面証券・金融、12 面広告、13 面新刊図書紹介、14 面 15 面県内総合、16 面 17 面 18 面地方、19 面広告、20 面 21 面スポーツ、22 面 23 面医療、24 面ラジオ・テレビ欄、25 面特報、26 面広告、27 面 28 面 29 面社会、30 面テレビ欄となっています。

新聞という情報源を読み解き、自分に必要な内容を選択して、新聞のかたちにまとめることは、社会科の観点の「資料活用能力」や「思考判断表現能力」を育てることにつながると考えます。

2. 学習計画

時間	学習内容	学習活動	留意点
1	学習新聞づくりの事前学習	新聞記事の中から関係する記事など学習に関する情報を探す	新聞を読む習慣を育て、新聞に対する興味関心を高める
2	新聞の作り方	縦長に組む新聞の作り方を研究し、罫（けい）線を引く	全体の内容、レイアウト、見出しの位置を検討する
3	新聞作り	原稿用紙に文章を書く	教科書、ノートや新聞を参考にする
4	新聞作り	図表やイラストを書く	新聞や資料を参考にする
5	新聞作り	見出しのレタリングをする	新聞を参考にする。色を付ける
6	学習新聞の発表	学習新聞を比べて評価する	評価シートに記入する

3. 学習新聞の例

日本の諸地域（都道府県の調査 静岡県の地理新聞）



世界の諸地域（地理新聞）



4. 生徒の反応

日本の諸地域（都道府県の調査：静岡県）

- ・特産物はお茶以外に、サツマイモ、メロンやピオーネ、トウモロコシなどがあった。トウモロコシは森町の一宮の水と環境を守る会の会員と一緒に収穫した。幼稚園の子たちによって季節の特産物が収穫されている。私も旬の特産物を食べて夏を乗り切りたい。
- ・放射線の問題は、お茶の線量がフランスで話題になり、集めやすかった。東日本大震災の影響は原子力発電所の是非や支援物資の寄贈などの磐田市の話題も収集できた。

世界の諸地域

- ・アメリカの話題は、いつも新聞に載っているので、スペースシャトルや株価の暴落などさまざまなことを収集できた。
- ・ドイツ情報の新聞記事は、なでしこジャパンの活躍もあり、新聞から簡単に見つけることができた。
- ・円高のことや、ユーロやドルといった通貨や為替相場などの経済のことがよくわかった。記事を読むことでEUのことがわかってきた。

5. 新聞記事をもとに新聞を作ること

新聞を縦長に組むというかたちは、明治以来140年間にわたって、形成された文化です。見出しは10文字前後で内容を表し、記事が上から下に流れていると、自然に上から下に読み進むことができます。

新聞作りでは、新聞を参考にレイアウトを工夫します。特に、「見出し」は新聞を参考にし、

- ・文字数が8～11文字である
- ・縦の上下に見出しが並ばない
- ・「見出し」のデザインはいろいろで、手書き風の文字も多い — ことなどを指導します。

生徒は見出しの「太く」と「濃く」の表現技術が理解できず、メリハリの効いた紙面が作りにくい。文字の見出しは「太く」インパクトのある言葉にし、「読みたくなる、読みやすい」新聞作りに挑戦させます。

新聞記事を読み解く活動の継続は、言語活動の充実のもとです。教員の新聞に接する時間確保が課題です。新聞作りの輪が広がることを願っています。「地域NIE」の活動を公民館などで展開し、新聞に親しむ機会を増やすこともよいでしょう。

古典新聞をつくろう

長野県大町市美麻中学校 中山 実

狙い

伝統的な日本文化の学習・充実が言われ、中学校の教科書でも古典文の扱いが手厚くなりました。

より多くの古典文にふれるために、教科書に掲載されている「枕草子」や「徒然草」の他の段を選択し、読み解いて、清少納言や兼好法師の価値観やものの見方・考え方を理解し、新聞形式で紹介します。光村教育図書の平成24年度からの教科書では、二つの作品が離れていますが、同時期に扱います。生徒たちが、古典に興味を持ち、全力で読み、古人や作品に親近感を持ち、「たのしさ」も感じ取れる方法の一つと考えます。

1、3年生や地域の人たちにも読んでもらうことを意識して、見出しやリード文、記事本文の書き方など、新聞の特徴を生かした紙面作りを目指します。

学習の流れ（全 12 時間）

二大随筆に触れる 1～3時

- 作品や作者について知る
 - ・二大随筆としての成立年代や段数など詳細
- 「春はあけぼの」（枕草子 冒頭段）の音読、口語訳の確認。清少納言の季節感と自分たちの季節感との比較をする
- 「仁和寺にある法師」（徒然草 第52段）の音読、口語訳の確認。序段と合わせ、兼好法師の思いを想像し、感想を持つ

二大随筆に触れる 4～5時

- 他の段を読む
 - ・口語訳を確認する
 - ・資料集や図書を参考にしながら、音読の確認をする

古典新聞を作る 6～10時

- 読み取った段の中から記事にする段を選択して、新聞作りをする

- ・原文と口語訳（傍注訳でもよい）を配置する
- ・筆者の主張を大見出しにする
- ・筆者の思いや考えに対して、自分の思いや考えを述べる
- ・原文に描かれている場所や登場人物、話題について調べ、コラム記事を添えたり、紹介したりする
- ・方眼新聞原稿用紙を利用し、見出しやカット、構成などの工夫をする

読み合い、発表し合う 11・12時

- グループ内で発表し合う
- グループ代表を決めて、音読み、工夫した所、筆者の考えに対しての私の考えなどを、みんなの前で発表する

◇生徒が選択した段（平成20～23年度）

（資料集に載っていたり理解しやすい段）

*段数はどちらも、小学館「日本古典文学全集」のもの

〔枕草子〕

・「正月一日は」（第三段）

・「すさまじきもの」（第二二段）

- ・「にくきもの」(第二五段)
 - ・「鳥は」(第四八段)
 - ・「虫は」(第五〇段)
 - ・「滝は」(第六四段)
 - ・「はしたなきもの」(第一三一段)
 - ・「うつくしきもの」(第一五五段)
 - ・「五月ばかり」(第二〇四段)
 - ・「月のいと明き夜」(第二〇八段)
 - ・「雪のいと高う」(第二七八段)
- 〔徒然草〕
- ・「神無月のころ」(第十一)
 - ・「堀池の僧正」(第四十五)
 - ・「ある人、弓射ることを習ふに」(第九十二)
 - ・「高名の木のぼり」(第百九)
 - ・「友とするに」(第百十七)
 - ・「城の陸奥の守泰盛は」(第百八十五)
 - ・「丹波に出雲といふ所あり」(二百三十六)
 - ・「八つになりし年」(第二百四十三)

◇選択のさせ方

- ・生徒の手元にある資料集に掲載の段から選ばせたり、古典文学全集の目次を参照させたり、漫画も含めて図書館にある他の本を参考にさせ、選ばせる
- ・自ら選択することが難しいと思われる生徒には、個に合わせて、自分の体験と比較できるもの、興味関心をひきそうな段を紹介する
- ・短くて、筆者の美しいと感じる対象や鋭い観察眼を知ることができるものを教師側から紹介する
- ・長い段については、記載部分を一部省略させる

*参考資料集

「最新国語資料集」(明治図書)
 「国語総合資料集」(東京書籍)
 「国語便覧」(浜島書店)
 「国語活用資料集」(新学社) 他



架空インタビューで紹介



教訓的な段は、共感しやすい



「那智の滝」が被災したニュースを聞いて、「昨年調べた滝だ」とスピーチした生徒の作品

最も伝えたいことを9～11文字程度で考えさせ大見出しとしました。「リード文」は新聞全体のまとめとするために、全体の記事が書き上がってから後に書くよう指導しました。コラムや短評、インタビュー形式(架空の)などの利用も効果的であることを伝えています。

三年生の「おくのほそ道」の学習にも生かせると考えています。旅立ちから大垣までの大旅行に芭蕉の人物像にも迫れる学習が期待できます。

『切り抜き作品』で大震災を考える

愛知県あま市七宝北中学校 豊田 久晴

狙い

東日本大震災を自分たちの身近な問題ととらえ、テーマに沿った新聞記事を収集し、記事・写真や見出し等を活用して新聞切り抜き作品（私の視点）を作成する。

1. 関連

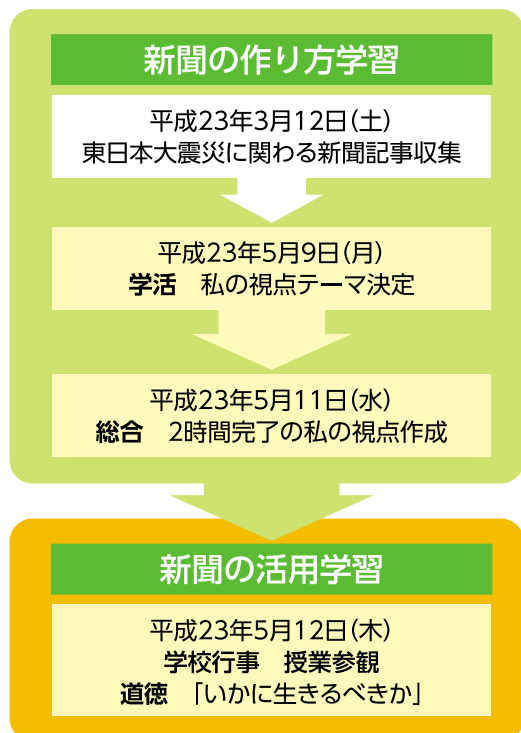
（1）新聞の作り方学習（本実践）

- ①学活⇒テーマを設定して、テーマに合わせた情報の収集
- ②総合⇒記事を読み取り、テーマに沿った構成を考え新聞切り抜き作品作成

（2）新聞活用学習

道徳⇒出来上がった作品発表と教師の講話

2. 活動の流れ



3. 実際の活動

（1）活動の狙い・目標

【学習の目標】

班のテーマをもとに分かりやすく伝えるレイアウトを考え作成する。

【話し合い活動の目標】

自分の考えをもって話し合いに参加し、班の伝えたいメッセージが分かるようにする。

（2）実践

- ①5月2日（月）朝の会、帰りの会に東日本大震災に関わる新聞記事収集の呼びかけ班長会の発足と第一回班長会を開く（学習活動の流れの確認）



- ②5月6日（金）保護者に道徳の授業で活用する、命の大切さを伝える手紙の依頼。「第二回班長会」を開く（新聞記事の切り抜きと班活動追究テーマの決定）



- ③5月9日（月）学活 班の話し合い

6つのタイトルを発表し、新聞切り抜きの記事からどんなテーマについてまとめるのかを班で話し合う。



学級	班	タイトル	私の視点テーマ
A	1	地震・写真	地震の怖さ
	2	ボランティア	被災地は耐えている
	3	国の対応・経済	震災に対して国はどう動いているのか？
	4	原発・放射能	原発
	5	ボランティア	家族は友は…
	6	地震・写真	地震の恐怖
B	1	ボランティア	被災者と支援者
	2	原発・放射能	原発・放射能の恐ろしさ
	3	地震・写真	被災地の今の現状
	4	地震・写真	震度7
	5	国の対応・経済	国の動きは大丈夫？
	6	ボランティア	絶対に生きるんだ

④ 5月11日（水）総合
2時間完了の私の視点づくり

想 起

3月11日2時46分に起きた東日本大震災がどんなことだったのか、どんな影響を与えたのかを見つめさせる。班で決めたテーマに沿った記事・写真・見出し等を選び、命の大切さに関わる新聞切り抜き作品を作成させる。

追 究

【班の役割分担と準備】

- 発表原稿作成係⇒発表時間は3分間以内
 - 内容 班のテーマ設定の理由
 - 新聞記事の説明
 - 命の大切さと結びつけた生徒感想
- 発表レポート作成係

【準備するもの】

A1サイズのB紙 のり 定規 はさみ
色鉛筆 マジック
各自で用意した新聞記事



【活動の様子】



分類された新聞を読み、班のテーマに沿って記事を集めていく。



収集された記事・見出し・写真等をテーマに沿ったレイアウトをし、構成していく。



【新聞切り抜き作品】



「新聞ができるまで」

新聞ができるまでには大きく3つの過程を経ます。まずは編集部門。取材し記事を書き、レイアウトをします。次は印刷部門。輪転機で新聞を印刷します。最後は販売部門。新聞の束を梱包（こんぼう）して販売店に運び、各家庭に送り届けます。ほかにも広告や事業などが関わります。

取材部門と整理部門

編集

編集部門は新聞社の中核で、編集局が担当しています。中は取材部門と整理部門に分かれます。取材部門といっても取材先によりさまざまなセクションが設けられています。事件事故から町ダネまで幅広く対応する社会部をはじめ、政界の動きを追う政治部、金融や企業活動取材する経済部。そのほか家庭に役立つ生活部、テレビ欄と芸能を担当する放送芸能部、文化全般の文化部、スポーツ担当の運動部、カメラの専門家集団の写真部などがあります。

それぞれの部には取材記者が配置されています。新聞記事を書くためには記者が取材対象と接点を持つことがスタートです。社会部の例でみてみましょう。記者の多くは官公署にある記者クラブを足場に、役所の発表や管轄領域の事柄の記事にします。議会の傍聴や定例の記者会見もあります。もちろん庁内を回って独自のニュースも探し

ます。

事件記者は警察署をベースに取材活動しています。パトカーや消防車がサイレンを鳴らして出ると、現場に飛びます。その先には交通事故があったり火災があったり。目撃者の話を集め、捜査状況を聞き出し、自分の目で見た様子をメモにします。現場だけで取材不十分なケースが多く、関連取材は欠かせません。

大事件はチーム取材

取材したら、原稿を仕上げます。小さな事件事故なら10分もあればOK。大きな事件になると記者1人でなくチーム取材するケースもあります。その場合は情報を突き合わせ、代表者が原稿にしたり合作にしたりします。

原稿はパソコンで文に仕上げます。出来上がると、社内情報通信網（LAN）や携帯電話で本社サーバーに送り込みます。写真もデジタルカメラで撮りパソコン経由で本社へ。

本社ではデスクという“最初の読者”が目を通

新聞ができるまで

取材



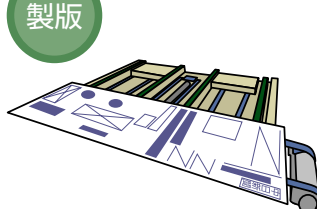
記者が、現場に駆けつけて関係者の話を聞き、写真を撮ります。取材したことを基に記事をまとめ本社に送ります。

紙面編集



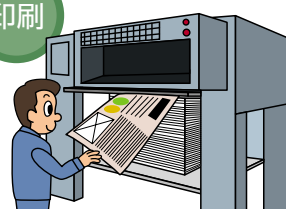
記事を読んでニュースの価値判断をして、記事に見出しを付け、写真やグラフを使ってレイアウト、紙面を仕上げます。

製版



新聞の形に組み上がったデータを印刷工程に送り、輪転機にかける「刷版」というアルミ板を作ります。

印刷



刷版を高速輪転機に取り付けて印刷します。刷り上がった新聞は、新聞販売店へ発送し、各家庭に配ります。

します。文章の良しあし、表記の間違い、取材不足の指摘などし、OK なら整理部へパソコンで送信します。

まず記事の価値判断

たくさんの取材部門からデスクを通じて、レイアウト担当の整理記者のところへ大量の原稿が流れ込んできます。ここからはレイアウトと見出しを担当する整理部の仕事です。どれをトップ記事にするかを判断し、見出しはどうする、1 ページに何本の記事を組むか ― が整理記者の仕事です。

1 面を例にとります。1 面というと、朝刊なら前日、日本で、世界で起きた一番大きなニュースを収容する面です。生のニュースなら 3～5 本が入ります。この中でも 1 番のニュースは、題字のとなりにトップニュースとして大きく扱われます。記事を大きく扱うために、見出しを何本も取ります。このニュースの最大ポイントを表す見出しを主見出しといいます。地紋を付けた、通称「トッパン」見出しからゴシック体、明朝体などさまざまなフォント（字体）を大小交えて、記事の肝を訴えます。

見出しは 8 字から 10 字で表すのが最適とされます。それ以上だと、すぐに理解しにくいのです。焦点もぼけます。主見出しで表現できない場合は次の見出しである「脇見出し」を添えます。

見出しとレイアウト

整理記者は原稿を読みながら見出しを考えます。締め切り間際に飛び込んできた原稿でも、斜め読みして的確な見出しを付けます。いわば見出しのプロ集団。

もう 1 つの仕事はレイアウト。原稿の行数を計算し、収まるスペースを確保。さらに、見出しの大きさと写真のサイズで微調整します。それでも、記事量が多すぎる場合があります。そのときは原稿の最後を切り落とします。新聞原稿は途中で切り落とされてもニュースのエキスが伝わるように作ってありますので心配いりません。これらの作業は「編集組版」というシステムの端末機器を操作して作り上げます。



1 ページ分を直接刷版に

印刷

組み上がると 1 ページ分が印刷工場へ電子情報として送られます。それを元に刷版（さっぱん）という印刷原稿が作られ輪転機にセットされます。

朝刊の場合、30 ページ前後の時の多いのですが、全ページがセットされると印刷開始。1 時間に 15 万部（ページ数やカラーの枚数により変動します）が次々に印刷されます。

中日新聞は中部 7 県で 270 万部余りを毎日発行しています。印刷能力が毎時 15 万部といえども時間がかかりすぎます。対応するためには輪転機を増やすこと。名古屋の本社のほか名古屋市内の辻町、金城工場と豊田、岐阜、東濃、そして浜松の 7 工場で印刷しています。同じ朝刊でも輸送時間の関係で早い時間に印刷する版（早版）、次の版（中版）、遅い版（遅版）と時間帯を変えています。

宅配制度ぐんと充実

販売

印刷された新聞はコンベヤーで運ばれ、販売店別に部数計算されて梱包します。すべてコンピューター制御されています。梱包した新聞はトラックに積み込まれ、各方面に向かいます。遠い所ほど早く出発するのは当然で、トラックが何十台も走っていきます。販売店に着くと、待ちかまえていた店の人がチラシを挟み、配達員が原則朝の 5 時まで読者宅へ配るのです。

日本の日刊紙の特徴は宅配制度の充実です。最近ではコンビニや駅の売店売りも増えてきましたが、朝、自宅のポストへ行くだけで新聞が手に届く宅配はなお主流です。

学校・学級新聞コンクール

小中学校での新聞づくりが盛んになっています。学校から保護者への「お知らせ」を新聞形式にした「学校学級通信」、子どもたちの勉強成果を新聞形式で発表する「自分（マイ）新聞」のほか生徒会新聞や保健委員会だよりなど、多彩な形式の新聞があります。形態もパソコンで作るものから手書きのユニークなものまで多種多様。

パソコン作製が主流

先生が作る通信

一枚の紙に連絡事項を書いただけの「便り」じゃ味気ない。そこで、楽しく読んでもらうために新聞形式にしている先生は多く、パソコン作製が主流です。

記事は学校であった行事の報告や、子どもたちの学校生活の様子、さらにはお知らせ事項も加えます。写真も入れて、見出しを付ければ保護者に読んでもらえます。通信の場合、定期的に発行しているケースが多く、連載企画を織り込むこともできます。

本格的な新聞形式に

子どもが作る新聞

生徒会新聞は全校規模の本格的な新聞でページ数も多いのが特徴。印刷会社で印刷してもらったりしています。学級新聞は手書きだったり、パソコン仕様だったりさまざま。単独で作る場合とグループで作る場合があります。小学生では手書きで絵入りが主流のようですね。中学になるとパソコンのケースが増えますが、手書きもまだまだ。定期刊行はむしろ少なく、単発で「新聞づくり」に挑戦した結果のようです。

中学、高校でみられるのは委員会単位で発行する新聞。福井県では高校の保健委員会で定期刊行しているのが目立ちます。

中日新聞では、これら学校で作る「新聞」を対象に、毎年コンクールを開いています。先生が作る部門と児童生徒が作る部門の2種類で募集し、

優秀作品を表彰します。2011（23）年度は74点が集まり、児童、生徒の部の小、中学校に最優秀賞1点ずつと、学校賞1点を、先生の部は最優秀賞1点、優秀賞3点を贈りました。募集要項は、年度によっては多少の変更があるかもしれませんのでご注意ください。

学校学級新聞コンクール募集要項

児童生徒の部と先生の部の2部門

該当する年度の4月から発行された新聞、通信が対象で、手書き、パソコン作製とも可。壁新聞は除く。

応募は、発行した新聞全号をとじ、表には「○○の部」と朱書きし、学校名、学年・学級、学校の〒住所、電話番号、担当責任者（指導の先生）を記入、活動状況（100～200字程度）を添えてください。

送り先は、〒460-8511（住所不要）中日新聞 NIE 事務局学校学級新聞コンクール係へ。

締め切りは例年、1月10日ごろ。（その年によって変わりますので注意を）

審査の上、児童生徒の部は最優秀賞、優秀賞、入選を選ぶほか、佳作、学校賞も決めます。先生の部は、最優秀賞、優秀賞、入選、佳作を選びます。年度末の2月中旬に中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井で発表し、2月下旬に名古屋市内で開く表彰式に最優秀賞の児童生徒と学校賞の児童生徒・先生、最優秀賞の先生を招きます。

作品制作の指導のために、NIE 事務局から専門の講師を派遣することもあります。無料。

先生のための研修会「パソコン教室」

毎年6月に開いている「先生のための新聞活用研修会」は、これからNIEをやってみようという、若い先生方を対象に開いています。

NIE実践の先輩教師であったり、カリキュラム本の編集に携わった先生であったりと、講師や講座のメニューは毎年変わりますが、最近の3年間はパソコンで作る学校学級通信の指導が続いています。

新聞作りの手法学ぶ

学校の先生方は、「新聞」という便利な手段で子どもたちや保護者に学校のことや先生の考えを伝えたいと思って、学校学級通信づくりに挑みますが、いざとなると、なかなか大変。読みやすいパソコン仕上げにしたいとしても、使いこなしきれない。そんなSOSを受けて、パソコン教室を開きました。

パソコンで通信を作るソフトはいろいろあります。標準装備のワードのほか市販のソフトがあります。2011年度の教室ではワードを使用しました。

参加者は20人。午前中は新聞社の整理記者によるレイアウトの仕方や、この日のメイン講師である岐阜県の中学校の先生による座学があり、午後からは、各自持参のパソコンを使って実践練習しました。

参加者は、いつもパソコンを使っても知らなかった便利な方法や裏技を教えてもらい、用意してきた記事を入力。ワード画面上でレイアウトし、見出しをつけました。出来上がった紙面は早速プリントアウトされ出来栄にみな満足していました。



ドラゴン号の派遣

中日新聞社には、新聞製作・広報車「ドラゴン号」があります。29人乗りマイクロバスを改造して、取材機器、印刷機器、発電機などを搭載。5人乗りで、いわば動く取材基地兼印刷工場です。

新潟県中越地震をきっかけに2005（平成17）年に導入しました。災害現場に乗り入れて、ミニ



ニュースを発行、通信が途絶した地域で情報提供に貢献します。大きな事件現場や選挙の号外発行にも活躍します。学校などからの出動要請は、新聞学習に関わる場合を原則としています。

多様な活用法を期待

装備は▽カラープリンター3台▽20時間発電ができる自家発電機1台▽パソコン2台▽デジタルカメラ2台。A3片面印刷で、1時間にカラーなら3600枚印刷できます。

これまでのところ災害出動はなく、主にイベント時の現地印刷のために活用されています。年間出動回数は約50回。そのうち3分の1はNIEがらみの出動です。

愛知教育大学連携新聞講座

大学生も新聞理解を

「中日新聞・愛知教育大学連携新聞講座」は、大学が2005年度に立ち上げた「地域の教育力を生かす市民参画講座」の1つとして開講しました。教職に就いて、新聞を教材に児童・生徒たちに教える場合、教える側が新聞を理解していなければ指導できません。教育大学生の多くが新聞を読まないだけでなく、10年12月調査では「新聞はいらない」とまで答える現状にあることを踏まえ、学生たちに「新聞」を理解してもらいたいという考えから継続しています。新聞社が講師を派遣し、大学側が施設を提供するという覚書を取り交わして実施しています。

現職の記者を講師に

教育大学には新聞を学ぶ講座がなく、大学からは新聞社の現職の記者、カメラマンや経験者が講師として登場する特色ある講座として、スタート時から注目されています。とりわけ、学習指導要領の改定に伴い、11年4月から小学校の教科書を皮切りに、12年度が中学校、13年度からは高校と順次すべての教科書が新しくなります。

小学校の新しい教科書では、国語、社会などを中心に、新聞を教材とした授業や、新聞作り、新聞などメディアの学習が取り上げられています。ですから、将来先生になる学生にとっては、新聞の実際を知ることにも必要になってきています。

連携講座は、新聞を読み解き、考える力を育成することの必要性を学生に理解してほしいという願いから「新聞を学び、新聞で考える—新聞を活用した授業力の育成」をテーマに設定しました。年間を通じて▽総合演習講座▽6年一貫コース新聞学習夏期集中講座▽教職大学院新聞学習夏期集中講座—の3つを開講しています。特徴は、1人の講師が全てのコマを受け持つのではなく、毎回講師が変わる点にあります。最近ではこのほかに、教員免許更新講習も受け持っています。

教師を招いて講座も

連携3講座の内容は、大ざっぱにいうと①新聞を知るという概論②記事を書く、レイアウトするといった新聞制作③教育現場での新聞活用体験—

が中心です。各講座とも15コマくらいで授業を構成し、内容ごとに分けて講師を派遣しています。

例えば総合演習講座は、前期に実施する土屋武志社会科教育担当教授と、後期に行う富山祥瑞美術教育担当教授の講義です。最近の授業の内容は編集局が担当する「新聞を学ぶ」と、NIE事務局が担当する「新聞を作る」のほかに、教育現場の先生が指導する「新聞を活用した授業実践」の3分野で構成しています。

書き方から見出しも

もう少し詳しく10年度の講座で説明しますと、編集局は「新聞の果たす役割」というテーマで、新聞の概論を講義しました。NIE事務局は、新聞記事の書き方や見出しの付け方、レイアウトの仕方など新聞作りの実務を指導しています。学校で実際に児童・生徒に授業をしている先生は、新聞活用の実践授業や学校新聞作りの授業などを紹介して、学生に分かりやすく説明しています。

学生がミニ新聞作り

後期に開講した富山教授の美術系授業では、初めて宿題を毎回出し「新聞を読み解き、記事の影響や自分の意見を書く」実習にも取り組みました。学生が提出したそのレポートは、中日新聞NIEコーディネーターが全部読んでコメントを書き、返しています。学生が新聞を読む機会を増やし、新聞に興味を持ち、新聞のことを理解してもらう試みです。最終段階のまとめとして、学生にA3

判のミニ新聞を作る実習を課しています。

前期に行う土屋教授の社会科系授業は、学生が実際に小中学校でNIEの研究授業をし、そのために必要な基礎知識を身につけさせています。

6年一貫コース新聞講座は、学部と大学院を連



編集局の中枢で整理記者から紙面づくりについて説明を聞く愛知教育大学6年一貫コースの学生

結した6年修了制度で学ぶ学生たちの授業です。5日間の夏期集中講座で、学生たちは中日新聞社を主会場に講義を受けます。近年はやりの「インターン制度」に似た実習方法です。編集現場を特別に見学して紙面の割り付けの様子を見聞するほか、新聞記事の特徴、報道写真の撮り方、新聞の果たす役割などの基礎的な講義を受けます。その上で「新聞記者になろう」という小学校の単元を想定して、NIEを実践している小中学校の教師や編集局の管理職にインタビュー、記事にまとめる実習も取り入れています。

「社会性」を育てたい

なぜ大学生に「新聞に学ぶ」などといったNIEの講義をするのか、と考える先生も多いことでしょう。いまでは教育大に限らず大学生の情報を得る主体は、インターネットです。キーをたたいて自分に必要な情報だけを得れば十分と考えています。この傾向は、今後ますます強くなるでしょう。

その結果なのか、小・中・高の学校教育に問題があるのか原因が明確ではありませんが、基礎的な読解力や文章力が低下しているだけでなく、「社会性」に乏しい学生が多いと、大学の教授は言います。先生になる前に、社会人として迷わない、困らない素養を身につけないといけないのではないかと話しています。そのための教材として「新聞」は良い学習材ではないか、と考えて「NIE講座」を取り入れていただいていると思っています。

教師に「新聞の実際」

09年からは、教職大学院でも5日間の新聞学習夏期集中講座を開講しています。内容は6年一貫コースとほぼ同じですが、院生は小中学校の現職教員なので、保護者への学級通信や、学級新聞、個人新聞作りに役立つよう、実際の紙面作りの体験をしています。新聞活用、新聞学習は、少しずつ対象が広がりつつあります。

教員免許更新講習「NIE 講座」 新聞を授業に生かして

中日新聞社は09年から愛知教育大学で、日本NIE学会理事で社会科教育担当の土屋武志教授と協力し、教員免許更新講習の一環として「NIE講座」を開講しました。好評で毎回、定員50人をオーバーしています。1日360分の講座を3日間持っていますが、締め切り前に埋まっているのが現状です。10年度は、免許更新講習を見直す文科省の動きもあって、受講対象なのに見合わせていた先生が少なくはありませんでした。そのた

めか、12月末の講座では、中部3県内の先生だけでなく、遠くは茨城、山梨県など遠方から駆け込み参加した受講者もありました。

内容は、生の情報が詰まった「新聞の教材化」を考えてもらう授業です。講座には、NIEの教育的意義、新聞を教材にした授業の実践、新聞を使った自分新聞作りなどを取り入れ、教育現場の先生に新聞を授業に生かす方法を学んでいただいています。

道徳の授業づくりに活用

浜松市佐久間中学校 原田 功

狙い

新聞には、次のような特徴が考えられます。

- ・テレビやラジオなどより情報を保存しやすい。
 - ・インターネットより情報の信頼性が高い。
 - ・中学生でも読み、理解することができる。
- そこで、道徳の教材の一部に新聞を活用した。

1. 学習の展開

(1) 授業のねらい

道徳の授業が活性化しない理由の一つに、生徒の関心がないことをテーマとして扱っていることが考えられます。新聞を活用し生徒がどんなことに関心を持っているかを知り、授業のテーマとして取り上げました。

(2) 新聞から関心のある記事を探す

生徒は新聞を読み、道徳の授業にふさわしいと

思う記事を探しました。

＜生徒が選んだ記事＞

- ・不景気
- ・こうのとりゆりかご（赤ちゃんポスト）の検証
- ・就職難一など

選んだテーマの中から、教師が道徳で扱うのに適切だと考えた題材を選びました。今回は、命の尊さを実感させるため、「こうのとりゆりかご（赤ちゃんポスト）」をテーマにした授業に取り組みました。

(3) 資料づくり

話し合いを活発化させるため、事前に「こうのとりゆりかご」や命に関連した記事を収集させました。舞台となった病院がある熊本の地元紙を取り寄せるなど、幅広い資料作りをしました。

＜新聞を読んだ感想＞

- ・命に関係した新聞記事が意外に多いことに驚いた。
- ・自分たちが住んでいるところでも、殺人・傷害事件が起きていることを知った。



(4) 新聞記事の資料



講演会
10月12日(金曜日)

看護部長が訴え 命に責任を持って

南部市中で講演



生徒の投稿

未来に向けて 懸命に生きる

保護者の投稿

子供は、成長の過程で、様々な困難に直面する。親として、子供が乗り越えられるよう、サポートしてあげたい。



「ポスト」に2乳児 運用3ヶ月で6人

2007年8月21日(火曜日)

(5) 授業のまとめ

まとめた新聞記事の資料を活用し、授業を振り返りました。資料の中には、講演会、新聞投稿など、生徒にとって身近な記事を入れました。学習したことを振り返りながら、大切だと思ったことや感じたことをマーカーなどで印をつけさせました。



いきいき学習 NIE 教育に新聞を

授業

「命」考え視野広げる

南部中学校



新聞記事を読み授業を振り返る生徒

2. 新聞を活用した成果

新聞記事をまとめた資料は、何度でも読み返すことができ生徒の思考を深めることに有効でした。資料に投稿を載せたことは、新聞を身近に感じるとともに授業への関心を高めることに役立ちました。

人権をテーマに新聞記事を活用

岐阜市加納中学校 小山 智哉

狙い

無罪なのに殺人などの罪で18年近くも刑務所に入れられていた菅家さんの「足利事件」をテーマに取り上げた。事件当時の新聞記事と無罪が確定した当日の新聞記事を読み、冤罪（えんざい）の経緯を知った上で、現地の情報や当時の人々への取材から人権の大切さに気付かせる。メディアリテラシーを育てて、自らの基準で記事を読む読者を目指した。

事件当時の新聞記事（18年近く前）



【1991年12月22日（中日新聞）】



【1991年12月23日（東京新聞）】



【1990年5月14日（中日新聞）】

事件当時の新聞と無罪確定当日の新聞記事と比較

今だからこそ冤罪とわかる事実ですが、当時と今日の新聞記事に関連させて比較して読めば、この足利事件の経緯や当時の世論の動向などをつかむことができます。

生徒は、当時の人々の立場からこの事件について考え、犯人扱いされた菅家利和さんの人権について考えました。

授業で活用した記事と今回掲載した記事とは、新聞社が異なりますが書かれている記事の骨子はどの新聞もほぼ同じでした。

当日の新聞記事の活用



【2010年3月27日（中日新聞）】

現場（栃木県足利市）での取材活動

新聞記事を足がかりに、当時の事件を知る人（菅家さんを支援する会の代表者西巻糸子さん）を取材しました。より事件の内容を理解して、授業に役立てるためです。

取材で事件が起きた現場の視察、事件の足取り調査、獄中の様子など、詳しく調べることができ、教材化に役立てました。

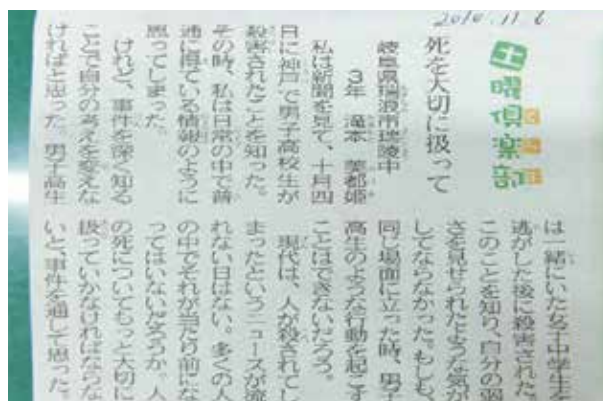


【事件が起きた現場で西巻さんから取材】

授業の様子



人権の大切さを感じた生徒の投稿文



【2010年11月6日（中日新聞）】

生徒の感想

- ・足利事件を通して、人権を守るために、どのように行動していくのかを考えた。この事件の場合は、菅家さんが犯人で、国民から、犯人だと信じ込まれていたけど、西巻さんは、1人の大切な人間として考えていて、うらをかくように何かあるんじゃないかと考え、こういう、1人の人間でも、人権を大切にしていくことはいいと思った。
- ・普段の生活でも、よくあるうわさとかで、ほんとうかどうかわからないのに、他人の意見にあわせたりしてその人のこととか考えていかなければいけないので、そういうちょっとしたことでも1人の人間を大切にしていきたいです。

生徒が菅家さんへ書いたお手紙

- ・私はこれまで足利事件を全く知らずといってもいいくらいで、単に「ひどい事件だな」と思っていました。ですが、菅家さんの思いや事実を知った時、「人権って何だろうな。」と本気で考えるようになりました。実は私も菅家さんに「一度会って話してみたいな」と思っています。機会があれば是非、お願いします…。
- ・私は改めて冤罪の怖さを思い知らされました。これから私が「同じ体験をしたらどうしようか」と思うと人ごととは思えません。そして、これからは同じような事件が起きないように、どんな人も大切な一人の人間であり、誰にでも人権があると考えていきたいです。菅家さんが今、明るい笑顔で暮らしていってほしいと心から願っています。
- ・この事件は身体的自由につながります。人権は一人一人に存在しています。憲法で守られているとはいえ、私がもっと人権について考えていかなければいけないと思いました。

身につけようメディアリテラシー

静岡県磐田市神明中学校 横井 純夫

狙い

公正な世論の形成には、メディアリテラシーという「マスメディアから発信される情報をさまざまな角度から批判的に読み取る力」を必要とします。新聞でそれを身につけよう。

1. 新聞でメディアリテラシーを学ぶ位置づけ

NIEの実践では、「初めに新聞ありき」ですが、新聞が情報リテラシーを学ぶために非常に有効なことはNIE推進者にとって当然なことで理解しています。

東京書籍の公民教科書P.73には、「人々は自分の意見をまとめるうえで、新聞やテレビなどのマスメディアをとおして政府や政党の活動を知り、新聞の社説などをとおしてさまざまな意見を参考

にすることができます」とあります。

マスメディアは情報の大量伝達の媒体のことで、かつてマスコミ四媒体といえば、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」でした。それが、今では、「新聞、放送、出版などのメディアをマスメディアといい、マスメディアを介して行われる情報伝達がマスコミである」といいます。「など」というのは、インターネットや携帯電話、フリーペーパーなどがマスメディアとしての機能を果たしつつあるからです。殊に、ウェブサイトが今までのマスメディア以上に影響力が強く、2011年の流行語大賞に「スマホ」が入るほど、世界的にも携帯タブレットの利用やウィキリークスなどのウェブサイトが、アフリカなどの民主化の動きに影響しているといわれています。

そうした中であっても、公共性が高く、信頼のおける新聞を用いたNIEの展開が必要で、複数の新聞を読み比べることによって、メディアリテラシーが身につくと考えています。

2. 学習の展開例

生徒の活動と教師の支援・指導・評価

◇導入で新聞記事を紹介し、感想を述べる

○政治、経済など自分の生活に身近な記事に、興味をもって読むように助言する

新聞記事の比較読みをして、メディアリテラシーを身につけよう。

◇静岡県西部地区で読むことのできる新聞7紙を黒板に貼り、トップ記事を比べる

- ・大震災教訓に 県地域防災訓練（中日）
- ・高台移転初の合意 岩手野田村の一部造14年度末（朝日）
- ・消費増税54%反対 全国世論調査（毎日）
- ・教科書採択 町村ごと容認（読売）
- ・教科書採択で圧力か（産経）
- ・デフレ経済実感とズレ（日経）
- ・津波対策地域が連携（静岡）

◇小集団ごとに、7紙の「消費税」の記述内容を読み解く

- ・消費税率などを年内に取りまとめる

◇社説のうち、同じテーマのものを比べて読む

新聞記事の情報を読み解くことで、メディアリテラシーが身につく。

○2011年12月5日の新聞の一面トップ記事の見出しをメモするよう指示する。各新聞が、何をなぜ重要と考えているのかをノートにまとめることで、違いに気付くように支援をする

○7紙から生徒の関心の高い記事にしぼり、同じ記事の取り上げ方の違いを整理し、話し合うことを指示する

・消費税 ・地震 ・教科書 ・デフレ

○共同通信社が世論調査を実施したが、毎日新聞社も独自の全国世論調査をしたことに気づき「各新聞社が調査をどう分析したか」内容を読み比べることを指示する。12月6日以降に消費税の記事を載せる新聞社もあることに触れる

基準 新聞記事を比べて読むことで、記事や内容の相違点が二つ以上書けた。（ノート）

○次時は国会の地位と役割を考えると予告する

3. 生徒の反応

① 7紙の比較読みをして生徒が気づいたこと

- ・新聞は社によって、記事の取り上げ方に違いがある
- ・消費税に対して、論調が増税賛成の立場と、反対の立場や問題点を明確にしたものがある

② 新聞の良さについて、生徒の意見

- ・インターネットと比べて、ジュビロ磐田の記事などは新聞の方が速くて詳しい
- ・地域の情報がいろいろ載っていて、よくわかる
- ・新聞は、いつでもどこでも読み返せる



4. ウェブサイトと新聞

2011年12月5日午前8時台にどういふニュースを流していたか。

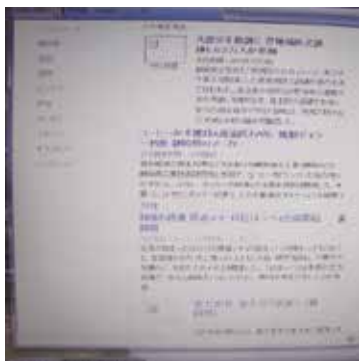
ウェブサイトのYahooのトピックスは

- ・鈴木宗男元議員が仮釈放
- ・再エネ価格委の人事に異議
- ・中3女子切りつけ 高校生逮捕
- ・名古屋市交通局を今日搜索
- ・長寿ギネス犬死ぬ 26歳8か月など

ウェブサイトGoogleのトップニュースは

- ・異議申し立て
- ・防衛相
- ・出荷停止など

Googleの静岡県のニュースに中日新聞のトップ記事を紹介していた



ウェブサイトの情報の出どころは新聞社や通信社。情報には、新聞より遅いものと、随時更新されて新しくなっていくものがあります。

新聞には、通信社による配信記事と社独自取材

の記事があります。中日新聞の12月5日朝刊は国際面の9記事中に独自取材の記事が6記事あり、社の独自情報網が張り巡らされていることが分かりました。

- ・米大統領選 ケイン氏撤退（ワシントン＝竹内洋一）
- ・ロシア下院選投票開始（モスクワ＝原誠司）
- ・シリア高官ら19人渡航禁止 アラブ連盟（カイロ＝今村実）
- ・米排除の共同体設立 中南米33カ国、思惑相違も（ニューヨーク＝青柳知敏）
- ・ミャンマー少数民族武装組織 州政府と停戦合意（バンコク＝寺岡秀樹）中ごろに「AFP通信」によるとある
- ・友好大使2頭＝パンダ＝英へ（北京＝朝田憲祐）
- ・英大使館付近で停車のバス爆発 パーレーン（カイロ＝共同）
- ・飛行場から米撤退へ パキスタン誤爆（イスラマバード＝共同）
- ・英兵、銃剣で刺しアフガン男児重傷 昨年、懲役終え除隊（ロンドン＝共同）

12月5日夕刊の一面にある「ロシア与党大幅減」の記事が、モスクワ＝原記者のものでした。二面には、「リトアニア脱原発、一転 新炉建設へ」が地図、写真、リトアニアの原発の解説付きであり、三面には「ロシア有権者プーチン体制に嫌気」の記事があって、いずれも原記者のものでした。

新聞の夕刊は、時差の関係で「ニュースの載るのがはやい」というが、ウェブに負けないくらいスピーディーに、詳細な情報が載っています。夕刊恐るべしです。

通信社とは違った独自取材の記事に、中日新聞の取材力の凄（すご）さを感じます。

5. 関連教科や領域

新聞記事でメディアリテラシーを養うことは、社会科だけでなく、さまざまな教科や領域で指導できます。

国語では「メディア社会を生きる」という文章を読んだ後に、新聞記事の比較読みをし、修学旅行新聞を作るという一連の学習活動が行われてきました。総合的な学習では、「福祉」や「人権」「環境」などに関する新聞記事を集めようという課題をもつことができます。

多くの情報から真実を知り、正しい判断をもとに進んで行動ができる生徒を育てたい。

読解、文章力アップのコラム学習

滋賀県長浜市浅井中学校 橘 利一

狙い

新学習指導要領では、生活や学習に必要な能力を身に付けるために、批評、評論、言語活動の充実が言われています。

最近の子どもは、テレビなどの影響で活字に親しむことが少なくなってきました。国語の教師として、生徒が活字に触れる機会を増やしたいと考えていました。その機会の一つに、新聞のコラムを利用することにしました。理由は▽高校入試にもたびたび出題され、生徒のやる気を引き出しやすい▽飽きっぽい生徒でも、読み通せるだけのコンパクトさ▽起承転結が明快で論理的一だからです。

1. 学習活動

	生徒の活動	教師の活動
水・木		新聞各紙のコラムから題材を選び、課題を作成する（新聞コラム社説リンクより）
週末	各自、自宅で宿題として、コラム学習プリントの課題に取り組む	全校各クラスの生徒に、コラム学習プリントを配布する（週末の課題としてクラス担任を通じて配布）
週明けの授業	正解のプリントを見て答え合わせをする 教師の解説を聞き、プリントを提出する。返却されたプリントをファイルにとじる	解答を配布し、提出状況をチェックする コラムの記事の難解な部分を説明する
後日適宜		生徒のコラム学習の感想を読み、コメントを書く。良い感想を生徒に紹介する

読解力をつける上で素晴らしいコラムですが、生徒に勧めても長続きしません。そこで生徒全員に、週末の課題として、コラムを題材に国語の教材を作成しました。

次ページの例を参照

2. 感想を書く気にさせるポイント

- ☆週明けの授業で、机間巡視しながら課題確認するとき、まわりの生徒に聞こえるように一人一人の評価をする
- ☆成績表の観点項目になっていることを、生徒にはっきり説明する
- ☆定期テストの範囲に入れる（実施したコラム学習の中からテストの課題作文として出題する） 右ページ②の例
- ☆よい感想を生徒に紹介する

3. 感想に対する評価ランクの上昇

- ☆コラムの文章の丸写し
 - ☆事実や例に対する簡単な感想を書く
 - ☆似た事実や例を挙げる
 - ☆記事の内容を自分に置き換えてみる
 - ☆筆者のさまざまな意図を読みとる
（卓抜な比喩に気づく）（どんでん返しの妙に気づく）
 - ☆社会には、不条理や答えが出せない問題があることに気づき「葛藤」する
（感想の中で多面的な立場に立って意見を述べられる）
- コラム学習を3年間続けると上記のように感想文の質が上がってきます。

4. コラム学習の感想

① 1年生の保護者の感想

兄や姉のころからコラム学習をさせていたのですが、とてもためになります。1年

コラムって、なに

中日新聞社編集局次長 白田 信行

新聞の記事はニュースが中心です。英語で「NEWS」というように、新しい出来事がニュースになります。ニュースを伝えるために記者は現場に行き、事情を知る人に会って情報を集め、正確で公平な原稿を書かなければいけません。さらにデスクが厳しく目を通して、疑問があれば記者にぶつけ、再取材や書き直しを命じ、時にはデスク自身が手を入れて紙面に載せます。記者の主張や思いを直接書くことはなく、客観的な内容を伝えるように努めます。

このようなニュース記事とは対照的に、記者の意見や考えを盛り込む主観的な原稿があります。それがコラムと呼ばれる記事です。意見や考えを述べる点は社説と同じですが、コラムはときには個人的な体験にも触れるなど、「私」も出して、社説よりずっと柔らかく書く原稿です。

「新聞の顔」と言われて

中日新聞だと土曜日朝刊の「編集局デスク」や夕刊社会面の「目耳録」といったいくつかのコラムを掲載しています。その中で代表的なコラムといえば朝刊一面の「中日春秋」でしょう。すでに六十年以上、一日も欠かさず掲載してきました。一面のコラムは新聞の「顔」とも言われます。毎朝ほほえんだり、怒ったり、悲しんだり、さまざまな表情を見せながら読者に一日の挨拶を送るコーナーでしょうか。「毎朝、この欄から読み始める」という読者の声をよく聞きます。ありがたく、同時にプレッシャーも感じる激励です。

「中日春秋」は何人で書いているのか、という質問もよく受けます。答えは、一人です。毎日、同じ記者が書き続けています。日曜日などは、中

日新聞東京本社が発行する東京新聞の朝刊一面コラム「筆洗」の原稿を使って休みをいただいています。地元で大きなニュースがあるときは休日でも出勤して書くことが少なくありません。担当者は取材と執筆の体験を十分積んだベテランで、このコラムを書くことだけに専念します。何人かの記者が交代で書くより、熟練の記者が一人で責任を持って書く方が、より気概を込められる。一人で書く伝統はそんな発想からでしょう。

このコラムは日々のニュースが基本。ですからその日の原稿はその日に書くのがなりたいです。起床して朝刊を読み、「今日のテーマはこれだ」と決まれば、とてもいい一日でしょう。大抵は決まらないまま午後になり、夕刊を読み、何とかテーマを決めて夕方ごろに書き上げます。でも、その後に大ニュースが飛び込めば、すでに出した原稿は取りやめて、そのニュースをテーマに書くこともあります。同じ朝刊一面で、あるニュースが大きく扱われ、読者の関心を集めるときに「中日春秋」が違うテーマでは、新聞コラムの役目を果たさないと思うからです。

何を一番いいたいか

私は2002年7月から五年間、「中日春秋」を担当しました。何をどう書くかは全く自由で、記者冥利に尽きる仕事でした。と同時に、きついものがありました。いつもテーマを探し、何をどう書けばいいか考える毎日でした。たった600字ほどの原稿がなかなか書けずに冷や汗をかいたことも少なくありません。夜半の大事件で急いで会社に戻り、その日の原稿をボツにして新たな原稿を書いたことがあります。あるときは出張先で大

の生涯で出版した本は約六百冊。ばく大な収入で城のような屋敷と劇場を建てた。美食家で好色家で小説の主人公より華々しい人生だったけれど、ついに破産する。晩年は氣弱になり息子の小デユマに「作品は後々も残るか」と尋ねたそう。▼後々どこか二十世紀も愛読されている文豪なのに、なかなかパンテオンに入らなかった。祖母が黒人奴隷だったことなどから反対があったのだ。殿堂入りを強く推したというシラク大統領は式典で、概を前にし「フランスは不正義を償う」と演説した▼こんな献辞も述べている。「あなたとともにパンテオンに入るのは私たちの幼年時代や、ひそかに読みふけた時間、情熱、冒険だ。あなたと再び夢を見る」。九日は漱石忌だが、かたや国家行事で大統領が「あなたと夢を見る」と呼びかけ、こなた教科書やお札から退場願う遺恨を思ふ▼デユマの概は作品の人物を襲った俳優本人が何千の市民と一緒に見守った。「三銃士」の有名なせりふ「みんなは一人のために、一人はみんなのために」と記した布で覆ってあったそう。

ニュースを知り、ホテルで原稿を書きました。

5年間で書いた「中日春秋」はおおよそ千六百本です。その一本を下記に紹介します。

2002年に書いたコラムです。フランスの文豪アレクサンドル・デュマの遺骨が、偉人を祭るパリのパンテオン（万神殿）に納められたという小さな記事がきっかけです。世界的な作家であるうえ、フランスは人権大国のはずなのに、祖母が黒人奴隷だったことから今まで選ばれなかったという事実は意外でした。それ以上に興味を引いたのは、シラク大統領の演説です。子どもに返ったような言葉で「三銃士」の作家をたたえる。さすが自国の文化や言葉に誇りを持つ国だと思いました。この年、日本では中学の国語の教科書から鷗外や漱石の作品が消えたことが議論を呼んでいました。フランスがすべて優れているわけではないけれど、日本との差はなんだろうと疑問を感じ、それを最も言いたくて書いた原稿です。

導入や事実を大切に

この原稿からコラムの要点を説明します。

まず大切なのは、何を書くか、です。中学校の教科書から鷗外や漱石が消えるのはいかなものか。そう書くとしても「中学生から文豪の作品を遠ざけてはいけない」と観念的に書いては直截すぎて逆に訴える力に欠けます。読む人の関心を引きつけるのは、主張を裏付ける具体的な事実です。デュマの話は格好の例でした。ただ、彼の生涯や式典内容の事実確認は時間がかかりました。

テーマと言いたいことが決まれば、次はどう書くか、です。読者に立ち止まってもらうために導入部をどうするか。「教科書から鷗外と漱石が消える」といきなりテーマを明かしても関心のない人は素通りでしょう。それより『三銃士』を持ち出した方が「何の話だろう」と読んでくれます。硬い政治や経済の話でも、直接関係なさそうな故事、歴史の逸話や小説の一節を冒頭に書いて読者をいざなう。それも大切な書き方です。

終わりも大事です。「と思う」や「したい」と

いった主張で終わる原稿がよくあります。悪くはないのですが、平板な感じです。コラムは主観を書くものですが、やはり事実で主張を伝えることが効果的です。先のコラムでも「日本の政治家も演説で漱石や鷗外に触れれば心に残るだろう」といった言葉で終わってもよかったでしょう。けれど、作品の人物に扮した俳優が柩を見守ったという描写で終えました。その方が、文化を守るとはどういうことか印象に残る。そう思ったからです。

一般的な作文でも、例えば祖父が入学祝いに贈ってくれた万年筆のことを書いたとして、「いつまでも使っていたい」と書くより「万年筆は今も私の胸元にある」と締めた方が心に残ります。

いつも分かりやすく

コラムの要点をいろいろ書きましたが、最も大事なことは分かりやすさ。やさしく書くことだと思います。新聞は素人の代表として政治家ら専門家の話を伝える役目があるからです。難しい言葉を言い換えるだけでなく、例えば話や比喩を使うのも有効でしょう。「分かりやすさ」とともに「こういう内容や書き方で読む人はどう思うだろう」と読者のことを常に考えるようにしていました。

共感や賛同の声はありがたいものです。でも、「あなたの主張には反対だ」という人にも「言っていることは分からないでもない」と思ってもらえる、理解してもらえることが重要です。そのためにどうするか。読む人が目の前にいると思って書くことでしょうか。常識や節度を守り、声高に物を言ったりしない。思いは抑制して書く方が共感してもらえます。同時に自分は大層な人間ではないけれど「こう思う」と若干の気概をもって書きつづるのが、新聞のコラムと思います。

人間を考える材料に

だから私は自分をコラムニストという気取ったような言葉でなく、コラム屋と言っていました。出来不出来はありますが、限られた字数でさまざまなニュースをかみ砕き、いろいろな物差しで社会や人間を考え、伝えようとする新聞コラムは、子どもたちの学びにいつか役立つと思います。中学の先生や生徒から何度かうれしい感想をいただいた元コラム屋の、ささやかな自負であります。

「三銃士」や「モンテ・クリスト伯」で知られるアレクサンドル・デュマ。今年が生誕二百年の彼は、一週間前の夜、殿堂に入った。▲仏北部の故郷に埋葬されていた遺骨がパリのパンテオンに納められたのである。ルソーやユゴー、キヨリー夫妻ら偉人七十人をまつる万神殿だ。六年前に作家マルローの殿堂入りを見たが、ライトが照らすなか、厳かに柩を運ぶ式典は劇的だった▼デュマはスーパ作家である。六十八年

中日春秋

「三銃士」や「モンテ・クリスト伯」で知られるアレクサンドル・デュマ。今年が生誕二百年の彼は、一週間前の夜、殿堂に入った。▲仏北部の故郷に埋葬されていた遺骨がパリのパンテオンに納められたのである。ルソーやユゴー、キヨリー夫妻ら偉人七十人をまつる万神殿だ。六年前に作家マルローの殿堂入りを見たが、ライトが照らすなか、厳かに柩を運ぶ式典は劇的だった▼デュマはスーパ作家である。六十八年

家族で“新聞” 学ぶ集い NIE 月間

小中学生の作文・写真表彰

11月はNIE月間です。これは、日本新聞協会がNIE活動をPRするために定めています。2010年まではNIE「週間」でした。

中日新聞社は毎年この時期、親子を対象にした「ファミリー新聞講座」を開催してきました。記者講話や社内見学にクイズなどを組み合わせ、楽しみながら新聞について学んでいただく内容でした。2010年から趣向を変え、子どもたちから作文や写真を募り、それを素材に新聞作りを体験してもらっています。

「月間」に変わった2011年は「新聞大好き家族の集い」と銘打ち、中部9県の小中学生から新聞にまつわる作文と、自由テーマの写真を募りました。審査の結果、計20点の入賞作品が決まりました。

表彰式には親子で参加してもらいました。入賞者全員に賞状と副賞（万年筆など）が贈られ、作品を素材にした新聞作りや社内見学をしました。

新聞は、災害時に使用する高機能の編集用モバイル端末5台を使って制作。記事や写真の配置な



NIE 月間 児童・生徒に端末への入力を指導

ど簡単な操作を体験してもらいました。完成した紙面は、新聞製作・広報車「ドラゴン号」で印刷、配布しました。紙面イメージや表彰式当日に撮影した写真はDVDに記録し、入賞者全員に後日お送りしました。

この「集い」をきっかけに、子どもたちが新聞により親しむようになってくれればと願っています。今後も内容を工夫し、続けていきます。



入賞者に表彰状を授与 II 本社北館ホールで



「新聞大好き家族の集い」募集要項

本社は11月のNIE(教育に新聞を)月間に合わせ、「新聞大好き家族の集い」の作品を小中学生から募ります。

内 容	作文は「わたしと新聞」をテーマに400字以内。写真は「家族」や「友達」などテーマ自由。ともに郵送かメールで。優秀作(作文、写真とも小中学生5点ずつ)は、新聞製作・広報車「ドラゴン号」で作る新聞に掲載します
送り先	作品に氏名、学校名、学年、〒住所、電話・ファクス番号、メールアドレスを書き、〒460-8511 中日新聞社 NIE 事務局(住所不要)＝電 052 (221) 1047＝あて。メールでの送付は、niejim@chunichi.co.jp へ。作品は返却しません
締め切り	10月25日必着
表彰式	11月17日＝中日新聞社(名古屋市中区三の丸) (注・募集内容は、年により変わることがあります)

新聞社の見学 こんな風に

最新の新聞製作を体感

新聞のことを知りたいと思ったら、まず新聞社に足を運んでみましょう。小学生時代に一度は新聞社を見学したことがあるよ、という思い出をお持ちの方もいるかと思いますが、飛躍的な製作技術の進歩で、大変革しています。

中日新聞社では、現在の社屋（名古屋市中区三の丸）に引っ越した昭和46年以前から、旧社屋（中区丸の内＝現在は中日病院）でも見学者を受け入れてきました。ここ数年は年間13,000人ほどの見学申し込みがあります。

様変わりの新聞作り

あなたも最新の新聞製作工程を見学してみませんか。鉛活字で1ページを組み上げ、紙型から鉛版を製作したかつての時代（HOT時代）から、いまでは技術革新が進み、整理記者がパソコンで紙面を組み上げる時代へと様変わりしました。こうした変遷の様子は、見学展示室でじっくり見ることができます。対象は、小中学生から、一般の人まで。

社内見学の内容は、新聞の製作過程を紹介する映画、印刷・発送職場の工場見学が1時間コース。またパソコンを使った新聞作り体験はおよそ2時間コースになります。

「新聞の誕生」映画で

映画は約20分上映。新聞社全体の仕事、取材記者の活躍から整理記者の紙面編集の様子、印刷、発送、販売店から読者へと新聞作りの流れを紹介します。

工場見学は、最新の超高速輪転機の並ぶ輪転場。夕刊の印刷風景が間近に見学できます。新聞社の“象徴”でもある輪転機がごう音をあげて夕刊を印刷する様子は、思わず足を止めて見入ってしまう迫力があります。印刷されたばかりの新聞は、特殊なキャリアーで発送場へ送られ、販売店別に

カウンタースタッカーが部数を正確にカウントし梱包（こんぼう）してトラックヤードへと運ばれます。輪転機の稼働は、時間帯がおおいた午後になりますが、稼働していない時間帯もありますから、事前に確認が必要です。

PCで新聞作り体験

新聞作り体験コースは、パソコンを使って見出し付けや、写真の取り込みを体験できます。製作した紙面は、カラー印刷をして記念に持ち帰れます。紙面作りのソフトは市販のものを搭載したパソコンで、6台設置してあります。6人以上の体験希望がある場合は、順番待ちの時間が必要になりますので見学係と詰めてください。



社内見学は、まず中日新聞ホームページ <http://www.chunichi.co.jp/> にアクセスして会社案内のサイトで申し込み方法を確認してください。申し込みの受け付けは、電話：052-221-0578（直通）で、平日10:00～17:00まで。見学月の3カ月前から受け付け、見学可能日は土・日・祝・年末年始を除く平日の10時、13時、14時30分からです。

新聞教育の指導と奨励

先生のための教育セミナー

新聞学習をどう進めたらいいか。教育現場の先生たちに新聞活用の実践方法や意義などを学んでもらう「先生のための教育セミナー」は、NIE事務局の中心事業の1つです。新聞を授業で活用してみようと考えている先生や教育学部系の大学生、教育関係者は、ぜひ参加してください。

NIE シンポが原点

セミナーの原点は、1995年の「NIE シンポジウム」が始まりです。これを2年続け「中日いきいき学習シンポジウム」に名称を変更、さらに「総合学習と新聞活用座談会」と改称しました。いずれも11月中旬から12月初めに開催していましたが、1999年から現在の「先生のための教育セミナー」がスタートしました。

日程は、毎年夏休み中の8月10日前後で、NIEの研究をしている大学教授らを講師に招いて、本社で開催しています。24年度で14回目になります。

当初は、特色ある学校作りや、生きる力を育むために教科横断的な授業をする「総合的な学習」が始まったばかりで、新聞活用に関心が高まり、200人から250人近い先生らが受講していました。

セミナーの意義不変

最近では、先生の雑用が増えて忙し過ぎるのか、関心が薄れてきたのか、両方なのか定かではありませんが、100人から150人くらいの受講者数になっています。

参加者が減っているとはいえ、新聞活用の方法を学ぶ教育セミナーの意義は変わっていないと考えます。というのは、11年4月からは新学習指導要領に基づき、小学校の教科書が一斉に新しくなりました。とりわけ国語や社

会科では、新聞を活用する授業内容が今までになくしっかりと取り入れられていますので、先生もNIEに関心を持たざるを得なくなりました。12年は中学校、13年は高校で順次、教科書が一新され、新聞活用授業の必要性が高まるでしょう。

教育セミナーの講演内容はこれまで、詳報を40～45ページの冊子にまとめて中部9県の小、中、高校へ寄贈してきました。

教科書に沿うガイド

11年は、12年春から中学校の教科書が刷新されるのに絡めながら、今回も講演のテーマを「教育に生かそう新聞力」としました。教科書に合わせたガイドブックを作ることにしてセミナーの詳報を大幅に圧縮。先生が利用できる中日新聞社のNIEの取り組みも紹介することに。8月11日に本社で開催。講師は、東京都NIE推進協議会会長で東京都北区東十条小の関口修司校長と、愛知県安城市錦町小の市川正孝先生でした。次ページから、講演内容の概略を再録しました。



12年夏の教育セミナーも、来年に高校の教科書が新しくなるのに関連して内容やテーマを決め、8月10日に開催する予定です。

学校ぐるみで NIE

行政が“新聞大好き計画”で支援

東京都北区立東十条小学校校長
東京都 NIE 推進協議会会長
東京都小学校新聞教育研究会会長

関口 修司

5 年程前までの NIE は、個人かグループでの研究実践が中心でした。その研究は大変レベルの高いものが多く、一般の教員が真似しようとしても、なかなかまねのできない実践がほとんどでした。そのような研究をしている実践者は、一般の教員から見ると技を極めた職人のようでした。残念ながら、その職人芸は、同じように熱心な弟子に受け継がれることはあっても、多くの教員に広がることはありませんでした。しかし、最近、NIE に取り組もうとする教員の姿勢に変化が現れてきました。

「深める」から「広める」研究へ

教育研究は、大きく二つの方向性があると考えています。一つは、「深める」研究です。これは、最近までの NIE の方向性です。当然のこととして、この深める研究がなければ、価値が浅いものになってしまいます。研究の質を引き上げる優れたモデルの提供ができなくなってしまいます。二つは、「広める」研究です。これこそが、これからの NIE の進む方向性です。前者を遠い目標にしながらも、目の前に誰でもできる目標を設定して、多くの教員に NIE を浸透させるための研究です。教育実践は、多くの教員が実践し、その効果が多くの人に評価されて、初めて広がるものだと思います。

うれしいことに、ここ数年、堰（せき）を切ったように後者の取り組みが報告されるようになりました。

それが、学校組織で取り組む NIE であり、行政が支援する NIE です。その先駆けの一つとなった取り組みを紹介します。

一般に、行政は「新聞」と聞くと、及び腰になる場合が多々あるようです。しかし、そのようなイメージのある行政が、NIE を積極的に支援している事例があります。

私の勤務校のある東京都北区教育委員会が、それに当たります。北区教育委員会は、2010（平成 22）年度の「北区教育ビジョン 2010」を策定しました。その中の重点施策の一つに「新聞大好きプロジェクト」を位置付けたのです。



「新聞大好きプロジェクト」事業は、10 年度から実施されました。春と秋の年 2 回、新聞大好きプロジェクト運営協議会が開かれ、区内の全小中学校 50 校を対象に担当者を集め、「新聞スクラップ研修会」や「新聞作り研修会」などを催すものです。これにより、区内の全公立小中学校に NIE の基本的な研修を積んだ教員が在籍することとなり、着実に NIE の裾野は広がってきています。教育委員会の働きかけで区内の新聞販売店の多くが新聞を各校の希望部数提供してくださるようになり、NIE の環境整備も整いつつあります。

NIE に取り組んでいる実践者にとって、行政の NIE 支援は画期的なことで、まさに心強い味方を得た気がします。今までは子どもたちのために NIE の実践をしていますが、個人の趣味のように見られがちだったことは否めません。学校によっては、教員が休み時間や空き時間に教材研究のつもりで新聞を読んでいた、仕事をサボっているようにさえ見られることもありました。しかし、行政の支援によって、新聞を読むことがそのまま「教材研究」として認められることになった訳です。折しも、小学校で 11 年度から、中学校で 12 年度から、本格実施となった新学習指導要

領の内容も、NIE にとっては大いに追い風となり、NIE の実践者を点から面に広げる好機となりました。行政が NIE を、思考力・判断力・表現力の育成や PISA 型学力の向上、言語活動の充実などの、現代の学校教育の課題に直接向き合う教育実践として認めたことは、NIE にとっての大きな一歩といえます。

契機は 1 校の取り組みから

このように、北区教育委員会が新聞大好きプロジェクト事業を推進するに至ったのには、1 校の NIE 研究の取り組みが契機となりました。それは、私が新任の校長として着任した北区立王子第三小学校の組織としての NIE の取り組みです。

私は、小学校教員として、全科を指導しながらも社会科を専門として研究を続けてきました。社会科の授業をする際、教科書にはない新たな資料を得るために、若手教員時代から当然のように新聞記事を活用していました。折に触れ新聞作りもさせていました。自分のことで恐縮ですが、そのころでも自己流の NIE で、それなりに担任した子どもたちを伸ばしたと自負しています。資料の読み取りが深くなり、文章表現力も学級全体としてかなり伸びたと確信しています。しかし、子どもを伸ばしたと実感すればするほど、送り出した次の学年や次の中学校で、新聞とはかかわりのない学校生活に戻ってしまう子どもたちの状況を目にする度に、悔しさとむなしさを痛感し、個人の NIE 実践の限界を思い知らされました。その後も、実践を続けましたが、次第にある思いが募ってきました。それは、いつか管理職になったら学校組織で NIE 研究に取り組みたいという思いでした。そして、新任校長として着任したのが王子第三小学校でした。

実技研修からスタート

とはいえ、簡単に校内研究として NIE に取り組むことはできませんでした。それまでの校内研究から NIE の研究に移行するまでには 2 年間を要しました。その間、教員、特に、新聞を読まない若手教員に新聞の面白さや新聞を授業で活用することの重要性を浸透させていきました。児童や保護者・地域にもことあるごとに新聞記事を話題にして、少しずつ新聞を受け入れる雰囲気醸成していきました。その甲斐あってか、07・08 年

度の北区教育委員会研究協力校として指定を受けることができました。研究テーマは「情報を正しく活用できる児童の育成—NIE の実践を通して—」としました。

実のところ、教育委員会が研究テーマに「NIE」の入ったものを研究協力校として指定しないのではないかという不安もありましたが、その心配には及びませんでした。

しかし、学校全体で NIE の研究に取り組む、しかも、教育委員会の研究協力校の指定を受けてという過去の研究報告は、私の調べた限りでは、一つもありませんでした。内容的にも方法的にもどう進めたらよいか悩むことばかりでした。そこで、考え出したのが、実技研修の充実でした。教員一人一人が NIE の理解者となり推進者となって、楽しく充実した研究を主体的に進められるように、一年次の前半は実技研修会を中心に計画しました。具体的には、「新聞社から見た学校教育（講演）と新聞切り抜き作品作り研修会」「新聞作り研修会」「新聞スクラップ研修会」などを、研究をスタートした半年間に組み、NIE への理解と指導技術の習得、教員間の人間関係作りを行いました。研究開始時に行った「新聞社から見た学校教育と新聞切り抜き作品作り研修会」では、東京新聞サンデー版編集部長（当時）の伊藤嘉英氏と同社 NIE コーディネーター横山健次郎氏に講師をお願いしました。後にこのときの研修会が、新聞大好きプロジェクトに大きな影響を及ぼします。

「NIE タイム」の新設

そして、一年次後半から、授業研究を中心に研究を進めました。同時に、研修したことを生かして、新聞に日常的に親しめるよう新聞スクラップの活動を時間割に組み込み、朝学習の 20 分間を活用して週 1 回『NIE タイム』と称して継続しました。また、通常の授業で新聞作りの活動をそれまで以上に入れるようにしました。さらには、夏季休業の課題として、低学年には「絵日記新聞」と中学年には、「わがまち新聞」、高学年には「新聞切り抜き作品」の制作を全校で取り組ませ、コンクールにも応募しました。

一年次後半からの研究授業は、まずは NIE の授業のイメージを教員につかませることを目指しました。4 本の研究授業を行いました。この時

点では、カリキュラムに位置付けた実践というよりは、カリキュラムにやや強引に結びつけた実践という印象の授業でした。しかし、これらの授業研究を通して、NIE のカリキュラム化の必要性も全教員が認識するようになりました。そのころになると、教員は徐々に子どもたちの変化にも気付くようになり、手応えも感じるようになりました。また、多くの家庭や地域から NIE を評価する声が寄せられるようになりました。

すべての教科に可能

二年次前半は、カリキュラムに位置付けた授業研究を数多く行いました。NIE は、基本的に全ての教科・領域で実践できるとして、可能な限り多くの教科・領域で研究授業を試みました。NIE の3分野である、新聞を教材として活用する「新聞活用学習」と新聞作りをする「新聞制作学習」、新聞そのものを学ぶ「新聞機能学習」の実践も意図的に行いました。『NIE タイム』や夏季休業中の課題も、一年次から継続しました。このころになると、学校での NIE の実践が新聞各社で取り上げられるようになり、子どもたちはもちろん、教員や保護者・地域まで NIE 実践への意識が高まってきました。

まとめの二年次後半は、09 年 1 月 16 日の研究発表会に向けて、授業実践の積み上げと研究発表会の準備に集中しました。

研究発表会が近づくと、各教室では『NIE タイム』のファイルを展示したり、教室前の廊下には「社会科見学新聞」や「歴史新聞」などの学習新聞が掲示されたりしました。その他のスペースにも、それまでに制作してきた中学年の「わがまち新聞」や高学年の「新聞切り抜き作品」が廊下や壁を埋め尽くすように張り出されました。研究2年目となると新聞関係のコンクールで賞をいただくことも多くなり作品としての質も高まってきました。

いよいよ研究発表会当日となりました。この日は区の研究協力校の発表ながら、北は山形県から、西は岡山県までの遠方から 430 人を超える参観者が集まりました。この研究発表会では、いくつかの工夫をしました。

1 年生が一般紙を読む

一つ目の工夫は、『NIE タイム』の全学級公開

です。『NIE タイム』は、子どもの生活の一部に新聞閲読習慣を位置付けることをねらい、おそらく本校が初めて実施したものです。特別支援学級を含む 1 年生から 6 年生までの全 13 学級で、毎週の継続的な取り組みを見ていただきたいと思いプログラムに入れました。当日は、特別支援学級や低学年では大好きな動植物や乗物の新聞写真を、中学年では興味のあるスポーツや行事の記事を、高学年では関心のある環境や国際的な問題、社会問題などの記事を、選び、切り抜き、貼り付け、要約や感想などを書く新聞スクラップの活動を、20 分間公開しました。多くの参観者が、1 年生が一般紙を広げて読む（見る）姿に驚いていました。

二つ目は、全学級の授業公開です。ここでは、可能な限り多くの教科・領域で3分野のいずれかの授業を見ていただけるようにしました。具体的には、国語、生活、社会、理科、算数、体育、総合、道徳、生活単元学習（特別支援学級）の教科・領域での授業を公開しました。参観者の多くが、低学年の新聞活用の工夫や、NIE ではあまり事例のない算数の授業、特別支援学級の新聞制作の様子、社会科での新聞読み比べなどに注目していました。

三つ目は、NIE の良さを伝えるための研究発表です。ここでは、NIE を知らない教員が NIE の基本的な内容や方法を理解し、NIE の面白さやその効果に気付くように、短時間で三分野の実践事例を中心として具体的に説明しました。紙面の都合上、ここで発表の内容までお伝えすることが出来ないのが残念です。研究発表の最後に、成果と課題を研究のまとめとして提示しました。（資料）

NIE の「日常化」の重要性

後に、研究を振り返って最も大きな成果だったと思うことは、『NIE タイム』だったと実感しました。研究授業をいくら行っても、カリキュラム化を図っても、日常的に子どもが新聞に触れるわけではありません。その点、『NIE タイム』では、無理なく日常的に少なくとも週 1 回子どもが新聞に接することになり、NIE の「日常化」に直結します。2 年間の研究成果としての子どもの成長の多くが『NIE タイム』の継続で培った読む力・考える力・書く力に支えられているといっても過言ではありません。この研究で、新聞の日常化の

資料

研究の成果

○子どもが変わった、力がついた。

<低学年>

・写真から情報を読み取る力の向上

<中学年>

・取材力の向上

・活字に対する抵抗感の減少

<高学年>

・記事の概要を素早く読み取る力の向上

・自分の考えを表現する力の向上

・情報の質や価値の違いへの気付き

<特別支援学級>

・知識の広がり ・書く力の習得

・伝える喜びへの気付き

○教員が変わった、授業力がついた。

・児童理解の深まり

・授業改善の意識の高まり

・カリキュラム化への始動

○保護者が変わった、会話が增えた。

・ファミリーフォーカスの広がり

・社会の出来事に関する子どもとの会話の増加

○学校が変わった、組織になった。

・NIEを組織で取り組むことの重要性

・学校組織の機能の向上

研究の課題

(以下の事項のさらなる取り組み)

○新聞を児童にとって分かりやすくする工夫

○NIEにかかわる時間の確保

○具体的なカリキュラム化

○日常化・生活化の工夫

○一般紙の確保

重要性が明らかになったことが大きな収穫と言えます。

四つ目は、本音で討論するシンポジウムです。ここでは、NIE 実践者の代表として新聞教育支援センター代表（当時）の吉成勝好氏と、NIE 実践者であり教育行政経験者である東京都 NIE 推進協議会事務局長（当時）の岩上薫氏、新聞界の代表として日本新聞協会 NIE コーディネーター（当時）の赤池幹氏をシンポジスト、群馬大学教育学部（現同教職大学院）教授の所澤潤氏をコーディネーターにお願いして、「学校の壁を取り払う NIE」と題してシンポジウムを行いました。それぞれの立場から学校教育の今日的な課題を解決するための有効な手段となる、NIE の今後の方向性や課題について激しい討論が展開されました（討論の内容は、ネットで検索すればご覧になります）。

口角泡を飛ばし激論

実は、このシンポジウムを実施するに当たって、事前に2回の打ち合わせを行いました。2回とも口角泡を飛ばし激論が交わされ、一時はどうなるかと思ったほどでした。それでも、次第に心の中では、本番が楽しみだと思えるようになりました。当日は期待に背かぬ本音と本音がぶつかり合う興味深い内容のシンポジウムになりました。

当日、研究発表会には、研究協力校の発表ということで教育委員長を始め教育委員会の多くの方々も来賓として出席されました。来賓の代表であいさつしたのが教育長の伊与部輝雄氏でした。氏は、あいさつの中で、校内に掲示されていた「新聞切り抜き作品」に書かれていた子どもの感想をそのまま読み上げ、NIE で培った読み取りの深さや感性の豊かさ、人権感覚の鋭さなどを評価し

てくださいました。私は、NIE による子どもたちの成長を温かく、かつ真剣に見極めようとする氏の姿勢に、ただただ頭が下がる思いでした。



その後、半年ほど経った頃でしょうか、10年度から「新聞大好きプロジェクト」を推進すると連絡が区教委からありました。

NIE の将来に展望

北区教育委員会内で、研究発表会後どのような話し合いが行われたかは知る由もありませんが、NIE 研究の成果が認められ、そればかりか区内の小中学校に教育委員会がイニシアチブをとって、NIE を広げようとプロジェクト事業を立ち上げたことは、例え東京都23区の一つの区取り組みであっても、NIE の将来にとって心強い可能性を与えてくれたと確信しています。

うれしいことに、その後、いくつかの市町村教育委員会でNIEを支援する動きが出てきたことを耳にしました。

NIE にとって、一人の実践者が大切であるの言うまでもありません。しかし、一人よりグループ、グループより学校全体で取り組むことが、NIE 本来の教育的効果を一層引き出すことになると、この研究が教えてくれました。その上、教育委員会がNIEを支援することが、NIEを実践する教員や学校を確実に増やし、ひいては、現代の教育課題の解決に力を与えると信じています。

[注] 講師の肩書きはセミナー開催時のものです。

新聞教育の方法と可能性

愛知県安城市錦町小学校 教諭 市川 正孝

1. 学習指導要領を乗り越える 気概を

私は、2002（平成14）年にも一度報告をしています。先回は「ゆとり教育」と言われた学習指導要領が発足した直後です。今回の学習指導要領では「言語活動の充実」が強調されています。私たちの実践は学習指導要領がベースになっていますので、それを強く意識するわけですが、学習指導要領を乗り越えるくらいの気概を持ちたいと思います。私はこの2年間、大学院で学びながら「新聞教育を核にした市民教育の可能性」という論文をまとめてきました。先回の報告よりレベルアップしたかと問われると、内心忸怩（じくじ）たるものもあります。しかし、私が30年近く取り組んできた「新聞教育」の実践が少しでもみなさんの参考になれば幸いです。

新聞教育 3つの側面

本日は「新聞教育の方法と可能性」というテーマでの報告ですが、最初に自分の立ち位置につながる基本的な考えを話します。「新聞教育」には3つの側面があると思います。

- ①新聞を資料として活用する（丸ごと使う 特定の記事を使うなど）
- ②新聞を作る（学級新聞 学習新聞 個人新聞 グループ新聞など）
- ③新聞や新聞記者の機能・役割・意義・影響等を学ぶ

③はもう少し大きく言えば、ジャーナリズムの在り方を学ぶことでもあります。「影響」という部分には「新聞」の問題点（新聞への批判）を含めていて、メディアリテラシーにつながる学習です。



2. 資料として新聞を読み 活用する

①「新聞学習カリキュラム」を手始めに

「新聞教育」をどこから手を付けていいかわからないときは、中日新聞社が数年前に発行した「新聞学習カリキュラム」を活用してほしいと思います。私も編集委員の一員ですが、この「カリキュラム」は小・中学校（あるいは高校でも）のどのレベルからでも活用できます。目の前の子どもの実態に合わせて、つまみ食いできます。「総合的な学習（以下『総合』）」を使って「面白見出し集め」「写真付きの短い記事に見出しを」などの活動に取り組んでください。新聞学習の予想外の楽しさ、効果を実感してほしいと思います。

切り抜きは継続して

新聞の「切り抜き活動」は継続することが大切です。その際、前記の「カリキュラム」を活用して新聞に親しみを感じさせながら、次には授業参観などで新聞活用の授業をし、保護者の理解・協力を得ながら進めることも大切です。その時に池上彰氏のような有名人のエピソードを取り上げてはどうでしょうか。氏がジャーナリストになるきっかけは中学生のときの宿題でオリンピック関連の記事を切り抜いたことだそうです。こんな話

を聞けば、やってみよう、やらせてみようと考え
る子どもや保護者が出てくるのではないかな。

新聞は本来気軽に読みたいものですが、学習と
して記事を読み、切り抜きを行う以上、次のよう
な注意点を切り抜きカードに書いておくことも大
事です。

- 1年間続けます。「なるほど」とか「初めて知った」
とか「心に残った」などの部分にけい光ペンで線を引
きながら読み進めましょう。
- 記事を読んだ感想を少しでも良いから書きましょう。
箇条書き（番号を付ける）でも良いです。
- 時々、家の人と記事について話し合ってみましょう（そ
の内容を感想に入れましょう）。
- 返されたカードはきちんと「総合」ファイルにとじて
ください。
- 時々、切り抜いた記事について班や学級で話し合いま
す。

朱書きのコメントは、「記事の内容面について」
共感的に、「読み取り方・感想の書き方（技能）
について」助言的に書くよう努めたいです。

言葉の力をいっそう高めるためには国語辞典を
併用することだと思います。国語辞典活用の詳し
い理論と方法は中部大学の深谷圭助先生が提唱し
ていますが、切り抜きと辞典活用を両輪にすれば、
かなり言葉に関心をもった子が育つと思います。

現在、私たちの学年ではこれを推し進めています。

②「新聞タイム」の確保を

この切り抜き活動は「新聞タイム」につなぐと
さらに効果的になると思います。朝の時間帯（例
えば「朝学」＝本校では8:15～8:30までの
学習時間帯）に曜日を決めて記事を読んだり、読
み合ったりする時間は工夫次第でとれるのではな
いでしょうか。そのとき個人で新聞を読む「新聞
タイム」と、同じ記事を読んで複数（4人以内）
で話し合う「新聞タイム」とを隔週（あるいは曜日）
ごとに位置づけるなど、学校・学年・学級・子ど
もの実態などを考慮して形態を決めると良いと思
います。

「協同の学び」大切に

グループの話し合いは「協同の学び」につなぐ
る極めて大切な学習です。この「学び」は計画的
に支援し、組織化する必要があります。話し合い
のスキルだけを重視して訓練的に行う話し合い
は、私はあまり賛成できません。やはり学校とい
う学びの場では「話し合う価値のあるテーマ」に
早く移行していきたい。読者欄の声、一面の写真
付き記事、中日新聞のワークシートでの紹介記事
など、新聞で取り上げるような話題に早く移行し
たいものです。参考までに支援策として考えた司
会者用の手引きを載せておきます。

司会の手引き（新聞記事をもとにした話し合い）＊司会者は班内の友達の話をつなぐように、下の言い方を参考にしてください。

① 今から「 」について話し合いをします。

- ・意味の分からない言葉がありますか
- ・だれか言葉の意味を説明してくれる人はいますか

＊記事中の大事な言葉の意味を確認

全員に発言を求める場合	意見が言える人に発言してもらう場合
・自分の感想や考え・意見を順番に言ってください ・みんなの意見を聞いてどう思いますか	・感想や考え・意見がある人は言ってください ・今のAさんの意見についてどう思いますか
・Aさんの意見に賛成（反対）の人はいますか、理由も言ってください ・Aさんの意見についてどう思いますか	
・ぼく（司会者）はAさんの意見に似ていて、・・・ですが、どう思いますか ＊司会者自身が考えを言って、話をつなぐ ・ぼく（司会者）はBさんの意見とはちょっと違って・・・ですが、どう思いますか	
・Cさんは、どう思いますか ・Dさんは、どう思いますか ・今の意見を聞いて気になることはありますか	

3. 新聞を作る

学習指導要領の改訂に伴って教科書にも多く「新聞」関係単元が取り上げられています。私の勤務地の安城市で使われる国語の教科書には次の単元があります。「新聞を作る」「読む」活動が大幅に増えています。

【教科書（東京書籍の場合）「新聞」関係単元】

4年「わたしが選んだ今月のニュース④」

「メモの取り方を工夫して聞こう③」（取材）

「わたしの考えたこと⑧」

「みんなで新聞を作ろう⑫」（編集）

5年「新聞記事を読み比べよう⑥」

「資料を読んで考えたことを書こう④」

6年「新聞の投書を読み比べよう⑥」

「わたしの意見を書こう⑦」

「資料を活用して書こう⑤」

学習を効果的に行うためには、新聞の切り抜き活動などで新聞を身近なものにしながら、上記の単元を「総合」や教科学習との計画的な連携のもとに展開することが大切です。

①教科学習と「総合」の計画的な連携を

4年生を例にとれば「メモの取り方学習」は「総合」の取材の前、社会科の見学学習の前に行い、それぞれの学習を相互に生かすようにします。また国語の「みんなで新聞を作ろう」の学習も「総合」や社会と計画的にリンクさせれば、内容も見た目（編集技術）も高めていくことができます。

新聞作りは手間暇かかるので、子どもにただ書かせただけで終わりになるケースも見られます。それだと新聞作りの魅力も、学力の向上も実感できないままになり、ことさら「新聞」を学習材にする意味がなくなります。時間を生み出す方法として、「総合」と教科学習の計画的な連携以外に、専用の割り付け用紙の活用をすすめます。私が独自に作った専用の割り付け用紙（注：連絡していただければ紹介します）を使えば時間短縮もできます。

②まず「見出し」指導から

ただ、注意しなければならないのは、一通り形が新聞になっているだけで、実は新聞作りの価値を伴っていないケースがあることです。例えば見出しです。トップ記事に「〇〇について」などの見出しが付いているケースが、それです。見出しの役目や書き方を少しでも学んでいれば防げます。例えば「記事の中からキーワードを探す」「10文字以内で表す」「たとえを使う」「倒置法を使う」などです。あるレベル以上の見出しを付けられるようにするためには、一般紙の「面白見出しを探す」「写真付き記事で見出しを考える」などの活動と結びつけることが有効です。

③継続発行を視野に入れて

継続的に「学級新聞を作ろう」という場合には、記事を見つける視点（友達、家族、夢、地域の活動、委員会、部活動、学習内容、本の感想等）を提示して、記事を書かせることが大切です。どんな学習活動でもそうですが、続けなければ魅力は



教育セミナーで講師に質問をする受講者

分かりません。特に「新聞を作る」活動は単発では効果も魅力も十分感じられないと思います。

「5W1H」は記事の基本ですが、学級で発行する新聞の記事によっては、必要条件でない場合も出てきます。それよりも、「一文を短くして主語・述語をはっきりさせる」「重要なことを先に書く」などを指導した方が、小・中学生には現実的です。新聞作りで言葉の力、分かりやすい文章、推敲（すいこう）する力を育てることを優先してほしい。

新聞の利点を考えるなら、書き手と読み手の双方向性を重視し、読み手をより意識化させること

が大切です。教師や読者の寸評は書き手に大きな励ましになるはず。限られた紙面で表現された新聞は友達や保護者に配布できるので、学習内容を共有化できます。継続的に発行することで予想以上の効果をもたらします。

「新聞を作る」前提となる取材をしたり、記事を書いたり、一人調べをしたりする活動は個人でも行う場合も多いわけですが、ここでは「協同の学び」をどのように組織化していくかが大切になってきます。前で述べたことを参考にしていたきたいと思います。

4. 現実に踏み込む「新聞教育」を



市川先生の呼びかけに応える聴講者

「記事をもとに現実に踏み込む」ことを考えてみましょう。学校や教育を社会とのつながりで見る視点は、実は教師にこそ重要だと思うのです。これがなければ新聞を教室に持ち込む意味が減ずることになるでしょう。

※記事を全員で読む→感想を話し合う→関係者への質問を考える→本人あるいは関係者を招く→記事・新聞等にまとめる

私が10年ほど前、最も関心をもったのは「生態系の破壊」でした。この問題を子どもとともに考えたいと思ったとき、新聞記事で見つけたのが「ビオトープ」であり「ケナフ」であり「オオタ

カ」などの記事でした。その一連の学習の中で、新聞で紹介された「ビオトープ管理士」の長谷川明子さんを教室に招きました。長谷川さんはアフリカ調査などの写真や体験をもとに、三角形モデルを使って生態系の話をしてくれました。視野を広げて考える機会を作り出せるのが新聞だと思います。

戦争の実相に近づく

次の例は「戦争」についてです。私は戦争を多角的・多面的に、できれば「加害」の問題を取り上げたいと考えました。しかし、なかなか適切な語り部が見つかりませんでした。そんなとき中日新聞の一面で見つけたのが、「元731部隊員」の家族、神谷則明さんです。父親の「731部隊」の

活動を「遺言」と言う形で聞き取った神谷さんは、父親の「戦争加害体験」を語り継ぐことを自らの責務にしていました。この記事子どもとともに読み、神谷さんとの出会いの場をつくりました。この他、地元の原爆被爆者、「ゾウ列車」の原作者・小出隆司さんの体験談を戦争関連記事の切り抜き活動と結びつけて聞くことにより、戦争の実相に近づけたのではないかと考えています。

子らが感動の出会い

国際的に活躍されている方に「スーダンの元大使館医務官」の川原尚行さんがいます。総合「かけがえのない命」の実践で切り抜いた川原さんの記事で学習をした後、その感想を記者に送りました。感想は記者からスーダンの川原さん本人に転送され、卒業間際の6年生との出会いにつながりました。はるか遠いスーダンで「かけがえのない命」を守るために奔走する川原さんの人間性に直接触れ、子どもたちは強く感動しました。一つの記事が社会の現実と子どもとをつなぐ、「新聞教育」の可能性を広げたと思います。

2011年の6月、東日本大震災を取材した中日新聞写真部の星野大輔記者にも来校していただきました。震災の驚くような現実、取材者と被災者の立場を4年生の子どもなりに考えることができたと思います。

中日いきいき学習賞、特別奨励賞

中日新聞社では、新聞を授業や課外活動で活用し、成果をあげている中部9県の小学校・中学校・高等学校の教師（個人またはグループ）を対象に「中日いきいき学習賞」を贈っています。創設されたいきさつは、次のとおりです。

新聞を学校教育のいろいろな場で活用する「NIE」は、1985年の第38回新聞大会（静岡大会）で提唱され、89年に東京で小学校1校、中学校2校がパイロット校（後の実践校）として活動を始めました。今日では全国の小・中・高等学校500校余りが実践校として取り組んでいます。

中日新聞では1994年名古屋本社NIE委員会を発足させ、NIE活動の重要性を考えて95年にNIE事務局を設け、中部9県を対象に普及啓発活動を始めました。

大きな事業の一つが、新聞記事を使って自分の考えをまとめたり、主張したりする「新聞切り抜き作品」作りです。作品の応募が軌道に乗り始め

た97年、NIE活動に熱心に取り組んでいる先生方を顕彰するために「中日いきいき学習賞」を創設しました。

審査基準で特に重要視したのは、一過性の実践でなく継続的な実践であることでした。さらに「新聞切り抜き作品」、「学校・学級新聞作り（教師作成の通信等も含む）」の指導実績、コンクール応募実績、本紙NIE関連紙面への取材協力や投稿なども参考にしています。以来、毎年数人ずつの先生方が受賞され、いまでは総数70人余になっています。

「中日いきいき学習賞」創設から12年目を経て、受賞者の中で10年以上こつこつとNIE活動を続けてきた先生方をさらに顕彰しようと「中日いきいき学習賞 特別奨励賞」を創設しました。「中日いきいき学習賞」の募集要項を載せておきますので、多くの方々の応募を待っています。

中日新聞社は、中部9県の小中高校で、新聞を授業や課外活動などに活用して成果を挙げたり、新聞切り抜き作品や学校・学級新聞づくりを意欲的に指導したりしている先生方を顕彰し、「中日いきいき学習賞」を贈ります。

主催	中日新聞社
後援	愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山の各県教育委員会および名古屋市教育局委員会
対象	中部9県の教師（個人かグループ）
応募方法	・B4用紙1枚の実践報告書を提出（横書きで中央を2つ折り） ・最初に応募者氏名（グループの場合は代表者氏名を）、年齢、所属学校名、職名、学校所在地、郵便番号、電話、FAX番号、自宅住所、郵便番号、電話番号を書く。 ・報告書の他に、本紙に掲載された記事があれば添付する。 ・授業記録や写真などの資料を付け加えても良い。
報告書の内容	・新聞を授業や課外活動などに活用した事例 ・新聞切り抜き作品や学校・学級新聞づくりを指導した事例
締め切り	毎年1月10日ころ
審査	提出のあった実践報告書の内容、実績などをもとに評価する。
表彰	・アルミ製賞額と副賞（8万円）を表彰式で贈る。 ・受賞者は、毎年2月下旬に中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井の各紙上で発表する。
応募・問い合わせ先	送り先：〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6-1 中日新聞社「中日いきいき学習賞」係 電話：052-221-1047 FAX：052-221-0856

※お断り…入賞者名簿、写真などは、新聞、電子媒体に掲載することがあります。

NIE ホームページも参考に

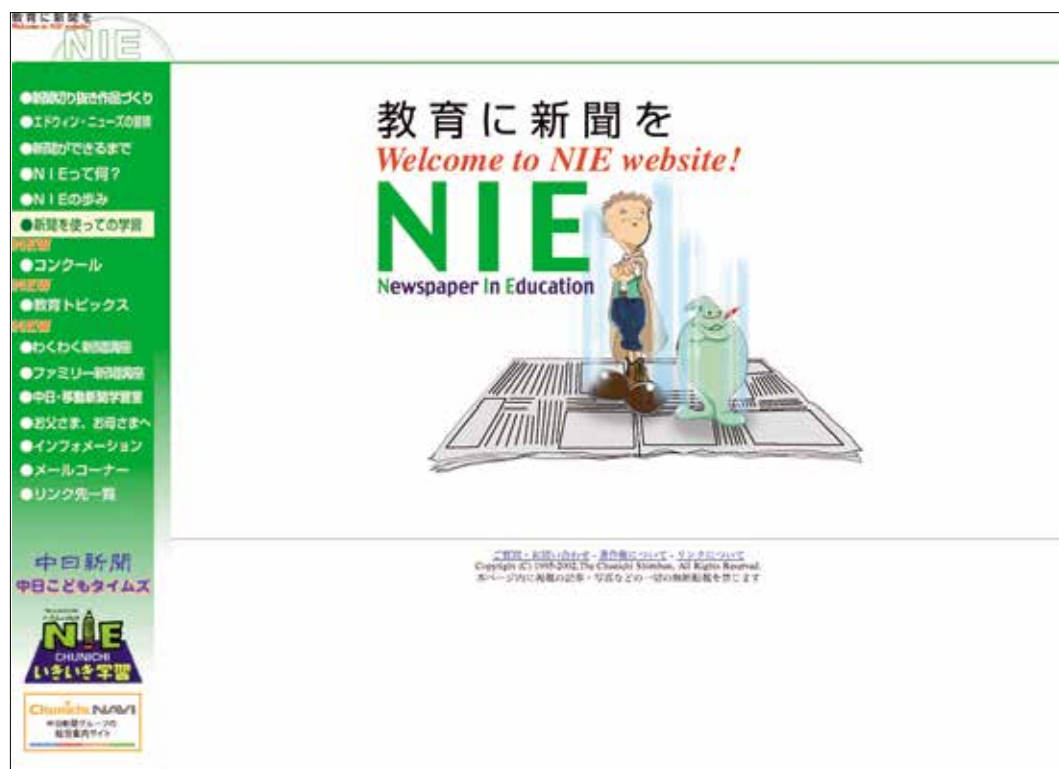
中日新聞社のNIEホームページ立ち上げは、2002年（平成14年）9月2日からです。新聞社のことを知ろうという子どもたちや、新聞学習を進めようと考えている先生の参考になる内容を掲載しています。

当時、NIEのホームページは、全国紙が先にスタートさせていましたが、地方紙はまだ数社しか開設をしていませんでした。

中日のホームページは、新聞社でどのようにして新聞を作っているのか、取材から紙面の形にする「新聞ができるまで」を解説しています。本社独自の新聞活用学習法で、毎年公募している「新聞切り抜き作品」の作り方を説明する「新聞切り抜き作品づくり」もあります。子どもにも親しまれ、分かるように編成しています。

学校で初めてNIEの授業に取り組む先生のために「NIEって何？」や「NIEの歩み」のほか、教育現場の先生が実践した事例「新聞を使っの学習」もあります。

本社が取り組んでいるNIE事業全般を詳しく説明していますので、ぜひ一度ご覧ください。



リンク先 <http://www.chunichi.co.jp/nie/>

編集後記

▼中学校編には、新聞学習の事例に、未曾有の被害をもたらした「3・11 東日本大震災」を取り上げて「教育に生かしたい」という思いでいっぱいでした。

想定を越えた津波の被害だけでなく、安全神話が崩壊のきっかけとなった「東京電力福島第一原発事故」の状況、環境・社会への影響を考えたとき、子どもたちの教育にも避けて通れないと考えたからです。幸い、数人の先生が大震災絡みの新聞教育に取り組んでくれ、事例として取り上げることができました。

▼もうひとつは「読解力」の向上や「新聞記事の比較学習」が登場する中学校の教科書に合わせて「コラム学習」を取り上げるということでした。今回は、実際に長年コラムを書いてきた新聞社側の筆者の思いや、これを活用して授業を実践した先生の事例を紹介しています。

▼ガイドブック全体のカラーは「3・11 東日本大震災」の被害復興、環境の改善を願って緑色に統一いたしました。発刊にあたって冊子が、この時期だからこそできた内容で、NIEと取り組む先生に少しでも役立つことを祈るばかりです。

▼授業の実践事例原稿を執筆した先生は、当時の勤務校名を掲載しました。(渥)

発行日 2012年6月3日

編集・発行 中日新聞社 NIE 事務局
〒460-8511 名古屋市中区三の丸1-6-1
電話：052-221-1047
FAX：052-221-0857

発行者 中日新聞社代表取締役社長 小出 宣昭

印刷 共生印刷株式会社
〒460-0007
名古屋市中区新栄2丁目11番6号

ガイドブック製作の 事務局スタッフ

サービス・PR 委員長	勝美 浩
事務局長	西尾 敏正
事務局次長	野川真一郎
事務局次長	久保 孝治
委員	渥美 勝朗
委員	服部 賢
	門脇 力
	小貝 有里
	水野 奈緒
コーディネーター	加藤 毅
	加藤 榮治
	加藤 正躬
(元) コーディネーター	原田 紀保
写真取材	中日写真部員



第18回新聞切り抜き作品の中学1年生の部 中日大賞

岐阜市立加納中学校 三間 詩央里さんの作品



第18回新聞切り抜き作品の中学3年生の部 中日大賞

愛知県豊橋市北部中学校 竹内 さやかさんの作品

